明治卅九年八月十日第三種郵便物認可

第三千二百二十九號　（一）　THE KEIJO NIPPO　大正五年五月二十六日

京城日報

廿五日夕刊

本紙定價　一部金二錢五厘　一ヶ月金五拾五錢　三ヶ月金壹圓六拾五錢
廣告料　行數制　五號活字一行金七拾錢
發行兼編輯人　眞田直一　印刷人　小川三之介
發行所　合資會社京城日報社　京城太平通一丁目

●總督邸饗應

寺内總督は二十九日午後四時三十分より陸軍大學戰跡旅行團河合校長以下職員生徒一同を官邸に招き立食の饗應をなす由

●司法官會同（第四日）

司法官會同第四日は前日に引き續き午前九時より總督府第二會議室に開會、司法官一同は素より寺内總督、山縣政務總監以下各部長官、局長關係各課長等出席し午前は提出意見の陳述、午後は協議事項ありて四時閉會したり

●國分長官招宴

國分司法部長官は廿四日午後六時三十分より司法官會同列席中の各司法官を花月に招待せり主客三十餘名同十時過ぎ歡を盡して散會したるが司法部より山口、深澤兩課長及び神野立石兩事務官等陪席せりと

●勝田總裁の招待

勝田鮮銀總裁は二十六日午後六時三十分より這回會同中の各司法官を花月に招待し宴を開く可しと

●物集博士動靜

▲鎭南浦歡迎會　鎭南浦にては物集文學博士來南を機として中野府尹、西崎商業會議所會頭外官民多數は廿四日午後本社支局主催の講演會散會後七時より料亭玉屋に於て歡迎宴を開き席上發起人の挨拶博士の謝辭等ありて盛會を極めたり

▲平壤の大講演　物集文學博士一行は二十五日午後一時二十分發列車にて鎭南浦より平壤に引返し午後四時半より歌舞伎座に於て既報の如く我社平壤支局主催の許に大講演會をなす（平壤）

●物集博士と文學士會

京城在住の帝大文科出身者を以て組織せる文學士會にては物集博士の入京を機とし二十七日懇親會を開會し同博士を招待する筈なりと

●藤澤參政官北行

藤澤參政官は二十四日廣梁灣の視察を終り同日出發平壤より北行哈爾賓に向へり（平壤）

●白水參謀長視察

駐劄軍參謀長白水少將は二十四日より京龍各部隊を視察中なりと

●今泉會計檢査官

元山より入京せる今泉會計檢査官は二十四日鐵道局の會計檢査に著手したり

●第十二回海軍記念日

來る二十七日は日露戰爭に於て我聯合艦隊の露國東洋艦隊を全滅したる第十二回海軍記念日につき當日各鎭守府各艦隊海軍各官衙其他海軍一般の休暇を與へ猶ほ東京築地水交社に於ては東宮殿下各皇族殿下を首め奉り元帥以下各將星參集し盛大なる祝賀會を開き餘興として大相撲の觀覽會ある可しと

●海軍記念日と鎭海

稀に見る可き盛觀

來る二十七日海軍記念日の

▲第三艦隊側に於ける記念式は目下鎭海西灣に在りて練習作業中なる鹿島、香取、肥前、敷島の四艦は二十六日縣洞灣に入り旗艦鹿島艦上に慶尙南道長官を初め第一二部長警務部長其他馬山鎭海の官民紳士を招待して記念式を擧げ艦前には艦隊要港部聯合短艇競技を爲さしめ之を來賓の觀覽に供せしめたる後立食の饗應あり終りて來賓の退散と共に艦隊主催の練兵場聯合大運動に臨場すべく上陸すべし

▲要港部側に於ける當日の催は將校集會所未だ竣工せず開廳式は猶ほ當日擧行せられざると慶草創各部の整理に忙はしき爲め記念祝賀は極めて質素に行はるべく鹿島艦上の宴會を終ると共に練兵場に於ける艦隊との聯合運動會は催さるべく相撲、野仕合其他の競技は數箇所に於て勇を爭ふべく小學校生徒並に鎭海市民の觀覽を歡迎すべしとのことなれば是亦頗る勇壯活潑なる觀物なるべく運動會了りて要港部司令官の招待に依りて道廳、馬山鎭海官民の重立ちたる者には立食の饗應あるべく夜は要港部司令官の晩餐會ありて之には艦隊司令長官並に幕僚各艦長道長官等の臨席あるべしと

▲市民祝賀會　午後五時より八時の間に於て鎭海市民は兜山大神宮敷地稚松生茂れる地をトして海軍記念日祝賀會を開催し村上艦隊司令長官以下幕僚並に各艦長要港部司令官以下各將校及び道長官の來臨を請ひ煙花を打揚げ餘興を催して以て軍港地市民の誠を竭すべく何れも目下委員を設け出張係を選び準備に餘念なければ當日の鎭海は海に陸に到底朝鮮各地にては觀るを得ざる壯觀を呈すべく他地方より來集して軍艦なり軍港設備なりを觀覽する價値あるべし（鎭海）

●京畿隊署長會議

京畿道憲兵隊署長會議第六日は二十五日午前八時より鍾路警察署に於て開催、內隊署長二十八名其他隊本部副官主計警務部警視及び各係主任警部出席し隈部部長統裁の下に術科として點檢操練擊劍等あり正午休憩の後午後一時より京畿道廳宣化堂に於て再開し隈部警務部長より一場の訓示あり午後三時散會し其より一同は隈部隊長の招待にかゝる嘉會洞翠雲亭の園遊會に赴けり

●京城府協議員會

京城府にては明治神宮御造營奉贊會の件につき二十五日午前十時より府協議員を召集し打合す所ありたるが近く一般に發表して募金に著手すべしと

●漢江橋起工式

漢江架橋起工式は二十七日午前十時より架橋地點なる漢江々畔鷺梁津渡船地の右岸に於て擧行のことに決し總督府土木局にては二十五日各關係官民百數十名に對して其れ〴〵案內狀を發送したり、同橋は既記の通り總額七十四萬圓の工事費を以て本年四月起工、大正七年三月竣成の豫定にして本流一千四百尺、支流六百尺の二大鐵橋を架設し兩橋間には完全なる聯絡道路を築立つ可く、橋の中央には有效幅員十五尺の車道を設け其兩外側に各六尺の步道を併設すると共に又た其の橋側に給水管を取り付け、鷺梁津なる仁川水道水源地の水を引いて京城水道の不足を補給する筈なり、本橋は京城を基點として仁川、木浦、釜山、麗水、江陵等の如き京城以南に於ける主要道路の幹線を連絡せんとするものにして一般運輸交通上の必要は勿論、軍事上に於ても亦主要の意義を有すること言を俟たず

●戰史旅行團來

陸軍大學戰史旅行團は二十九日午前八時南大門驛著汽車にて入京の筈なり一行は校長河合中將以下敎官七名生徒五十六名下士卒數名にして敎官は一同天眞樓に投じ生徒は京城ホテル、浦尾旅館及び原金旅館に分宿、三十日午前八時南大門驛發汽車にて退京す可し

▲旅行團日程　戰史視察團一行の京城見學日程は河合校長以下敎官一同は二十九日朝入京と共に馬車を驅つて寺內總督を訪問入京の挨拶を爲したる後、倭城臺より市中一般を視察し午前十時校洞普通學校、女子高等普通學校を觀覽す可く、學生一同は漢陽公園よりパコダ公園に赴き更に校洞普通學校を視察して正午敎官一行と合し昌德宮に於て茶菓を賜り、午後仁政殿、秘苑、動植物園博物館等を巡覽の上商品陳列館に赴き四時三十分總督官邸に於ける饗應を受くる筈なり

畢桂芳氏

新任黑龍江將軍畢桂芳氏は外蒙古に使して活佛と折衝し大に技倆を顯はしたるは最近の事にして支那政府が露人跋扈の黑龍に氏を赴任せしめたるは適材を適所に置きたる者として中外均しく賛同する所なり

▲一行の宿舍

旅行團一行の氏名及び京城に於ける宿舍左の如し

▼天眞樓（職員以下十三名）
（校長）河合中將（敎官）吉岡步兵大佐（同）川村步兵中佐（同）林步兵中佐（同）河田工兵中佐（副官）中井步兵大尉（軍醫）荻本一等軍醫、下士以下六名

▼京城ホテル（學生十九名）
川射步兵大尉、大谷步兵大尉、板垣步兵大尉、上村砲兵大尉、岡山步兵大尉、山縣步兵大尉、中村步兵大尉、吉村步兵大尉、河村砲兵大尉、大賀步兵大尉、井上工兵大尉、小笠原步兵大尉、松村步兵大尉、吉住步兵大尉、秋洲步兵大尉、窪田騎兵大尉、矢島步兵大尉、石割工兵大尉、近藤步兵大尉

▼浦尾旅館（學生十六名）
栗山步兵大尉、村上步兵大尉、千田步兵大尉、井上砲兵大尉、山下步兵大尉、長岡步兵大尉、加納步兵大尉、長嶺步兵中尉、稻垣步兵中尉、國賀步兵中尉、藤井步兵中尉、手塚砲兵中尉、佐藤步兵中尉、森本步兵中尉、田中步兵中尉、中山步兵中尉

▼原金旅館（學生廿一名）
平田砲兵中尉、松本步兵中尉、櫻井步兵中尉、桑名步兵中尉、國江步兵中尉、橋本砲兵中尉、牛島步兵中尉、下田砲兵中尉、岡田砲兵中尉、太田砲兵中尉、木村砲兵中尉、山田砲兵中尉、吉本步兵中尉、中井步兵中尉、二宮步兵中尉、黑田步兵中尉、山本步兵中尉、瀨川步兵中尉、村上步兵中尉、森島步兵中尉、原田步兵中尉

●支那敎育視察團動靜

目下入京中の支那師範學堂長より成る敎育視察團一行は廿五日朝九時より小河原視學官陳副領事の案內にて日の出小學校高等普通學校女子高等普通學校及び附屬校の敎育狀況を視察せり

●辭令

二十四日附を以て左の通り辭令ありたり

朝鮮總督府郡書記　具滋祿
任朝鮮總督府郡守敍高等官八等
黃海道松禾郡在勤を命ず

●電信遲延

二十五日朝來東海道天候不良にて東京大阪間及び東京、京城間直通の電信線に故障を生じたる爲同電信線に依る一般電信は著しく遲延す可しと

仁川

▲京都商業生の見學　京都第二商業學校生徒三十九名は同校敎諭宇佐美勝太郎氏引率廿四日午前京城より來り直に仁川稅關に至り後俱樂部に於て商業會議所より茶菓の饗應及び同所月報並に港況一般と題する冊子の寄贈を受け其より築港及び商業專修學校に至り種々の見學を遂げ午後七時八分仁川驛發列車にて釜山に向ひ直行せり

▲在鄉軍人分會　在鄉軍人會仁川分會にては二十四日午後七時半より仲町佛敎青年會館に於て開催し評議員及び議員約三十名參集市內十三區の會費取立方法及び二十八日仁川高等女學校內に開催すべき第六回在鄉軍人會仁川分會の總會に關する諸種の打合はせをなし十二時解散せり

開城

▲佛敎講演　高野山布敎界の重鎭として軍隊布敎に從事中の小田耕岳僧正一行の當地通過を機とし開城高野山の主催にて去二十三日夕小學校構內に於て佛敎講演會を開催したるが近頃久しく斯る講演會の開催なく一般精神的糧食に饑へ居りし際とて聽講者堂に滿ち小田僧正は「仁」隨行の二川憲保師は「活動は人間の天職なり」と云ふ題にて各々熱心に講演せられ非常の感動を與へたり▲校長出動　先月以來肺炎に罹り引籠中なりし片岡小學校長は愈々病氣恢復去廿二日より出動せり▲郡書記著任　水原郡書記たりし高橋久次氏は開城郡庶務主任として去二十二日著任せり▲俳句大流行　本春以來當地官民間に俳句大流行を極め何かと俳句らざる者は人に非ざるなりと云ふ有樣にて斯界大中小天狗の團體たる開城蛙鳴會定會の出席者は毎回三四十名に及ぶ由なる風尙餘り高からざる當地に於ては喜ぶべき現象といふべし▲活動寫眞日取　京日每申兩社支局主催の御大典活動寫眞日取は都合により廿八、九兩日夜に變更せり

大田

▲松蛄蝲驅除　大田郡にては大正二年以來松蛄蝲の被害甚だしく年々驅除に努めたるも未だ根絶するに至らず本年の如き既に發生を見被害面積二千九百町步に及びたるを以て大田郡守指揮の下に係員手別けの上來る廿六日より三日間松蛄蝲驅除をなす可しと▲鐵道工事入札　四街里驛より松汀里驛附近に至る三十哩間鐵道改築工事は來る廿六日當地建設事務所に於て入札に附す可しと▲小原忠淸南道長官は山縣政務總監送迎の爲め廿四日午後三時四十分來田直に腕車にて大東川を視察し山縣政務總監の一行に加はり鳥致院まで見送り同所に一泊翌廿五日歸公す

大邱

▲道路改修成績　慶尙北道にては築造標準に據り改修を了せる延長は大正五年三月迄一等線二十八里十七町二等線百十七里二十町三等線八十一里十四町合計二百二十七里十五町にしてなほ本年度改修見込延長は一等線六里十六町二等線十里二町三等線六里二十五町合計二十三里七町なりと▲大典記念植桑良績　御大典記念として今春來慶北管內各地に四百六萬五千本の桑樹を植栽せしめたる其後雨の爲め全部生育良好にして殆んど枯死せしものなかりしと▲慶北蠶兒近況　慶北に於ける蠶兒發育狀況を聞くに慶北蠶業講習所の蠶兒は既に四齡を了し來月五日頃上簇期にあり管內各地は多少の遲速あれど概して經過良好豫想の如く春秋蠶を通じて一萬五千石の收繭はある可しと▲山縣政務總監通過　嚴父病氣の爲め歸省中なりし山縣政務總監は廿四日午後一時十八分大邱驛通過歸任せしが停車場には官民見送人數十人尙ほ鈴木慶北道長官は慶山まで出迎へ倭館まで見送れり▲府尹郡守島司會議　慶尙北道にては來る二十九日より三日間道廳樓上に於て管內府尹郡守島司會議を開催す可しと

光州

▲奉贊會醵金額　明治神宮奉贊會へ對して本道より獻納すべき總額は六千圓なるが內六百圓は木浦に四百圓は光州に割當て其他各郡に夫々割當てらるゝ筈なり▲光州水道進捗　光州水道の要務を帶びて入京中なりし佐藤第一部長綾田技師は二十二日歸光せしが總督府と打合せの結果は至極良好にして相當の補助額を下附さるゝ事となり尙ほ近く水道技師を派遣して實查設計に著手する事となれりと▲宮木長官道內巡視　宮木道長官は來る二十九日光州發の上約廿日間の豫定を以て南沿岸一帶の各郡を巡視すべしと▲物產陳列場設計　昨年共進會の剩餘金二千餘圓を以て改築すべき全南物產陳列所は先般來設計に著手中の處愈々出來上りたるを以て近く請負入札に付する筈なりと▲蠶業講習所增築　光州柳林なる蠶業講習所增築は本年度豫算に計上され居たるが愈々蠶室四十四坪物置十五坪寄宿舍十四坪の競爭入札を行ひ本月中に起工の筈なり

木浦

▲井口司令官來木　駐劄軍司令官井口中將は安藤參謀小山主計正古城野津兩副官長谷川軍醫の隨行員と共に二十二日午後四時著の汽車にて井邑より來木三吉野に入れるが當日一般官民在鄉軍人會學校生徒等數百名之を停車場まで出迎へたり軍司令官廿三日午後三時警備船扇海丸にて海南に赴き其れより順天麗水に向ふ豫定なりと▲軍司令官講話　井口司令官は廿三日午前當地公立學校に於て兒童に對し一場の講話ありたり因みに歡迎會は特に辭退せる爲め見合となれり

人事消息

▲中村光吉氏（浦港松田銀行支配人）入京中の處二十五日朝退京
▲清水銀藏氏（愛國生命名古屋出張所長）同上
▲末松四郎氏（步兵少佐）二十四日夜入京浦尾旅館へ
▲今井清氏（山林課技師）林況視察の爲め二十六日水原へ出張
▲葛西市太郎氏（水產課技師）石首魚製造狀況視察の爲め二十六日高陽郡へ出張
▲井田主計監（朝鮮駐劄軍經理部長）二十二日正午晋州馬山を經て鎭海に到り管轄部隊の經理事務に就き檢査を行ひ二十三日午後馬山に引返す
▲山根備一氏（前總督府囑）病氣の爲め靜養中二十六日朝內地へ

●日本人顧問傭聘說

北京政府日本と新關係を結ぶ爲か

北京政府は最早日本の援助に待つの外なしとし從來日本に對する非禮を謝し新關係を結ぶ爲め從來の懸案を悉く解決し更に兩國の親善を圖る爲め日本より軍事財政の最高顧問を入るゝ件を承諾する見込にて元老及び日本在野黨方面に非公式に申込めりとの說あり斯くて日本が對支策を一變し袁總統を援け南方を壓する事ともならば袁家百年の計を遂する上に遺算なしと考慮せるが如しと袁總統が再三退職の決心を飜へせるは一に斯の策の成功を夢想せる結果なりと（北京特電）

●對支新抗議

日置公使は二十三日午後四時外交部總長を訪ひ山東省に於て日本兵銃殺、列車に發砲、商人慘殺、日本人家屋に侵入、軍用電線切斷及守備兵の勤務防碍等の件に關し正式に抗議せり支那側は既に非公式に同樣の事を聞き居れるより今更驚ける態度なし（北京特電）

●ド要塞奪還

佛軍の一師團ラ、マルセーユの軍歌を高唱しつゝ勇躍奮進してドーモン要塞に迫り遂に其大部分を占領するを得たり同要塞は去る二月十四日以來ブランデンブルグ軍の占領する所たりしなり（倫敦電報）

遊支短信

支那旅行の途に就きたる木村鮮銀理事一行より各地に於ける短信を寄する約あり、第一信に接したり、「外一名生」とは高橋武夫君の事に五龍背温泉より佐藤君と外一名生君の來郵、蓋し曩きに本紙雜錄欄に木村氏渡支の記事中高橋君の名を掲げず外一名隨行の旨を記したるに因めるなるべし、今後外一名生として來る消息は高橋君よりと知るべし

龍背より　佐藤得四郎

一週間は支店連に攻められ寸暇なく昨夜出發後奉天より北京行汽車の都合上一日の餘あるを利用し當地下車休養の事に決定致候。蓋し支那視察職に臨むには、先以て英氣を養ふの要あればなり。（廿二日）

理事獨り豪然　外一名生

四百餘州踏破せん旅ぞ初雷す
千里行く駒の試乘や青嵐
春蠶て國境の大河横切りけり（これは句には無之候）

此夜寒さ甚だしく轉々眠をなさず、翌朝皆防寒の用意なかりしをかこつ、木村理事獨り豪然として曰く「諸君何ぞ其れ無定見なる、我等が志は南方にあり、北方に備へざるは固よりその所のみ」と、片鱗尙理事の氣宇を見る。

■時事吟　大塊
雲雀鳴く亞細亞半島高麗の空
○　虎耳
國境の河越ゆるまばゆしき雲雀哉

西川のかや
日本橋印
縫目透蚊帳　本濱蚊帳
蒲團　夜具ふとん
團　ざぶとん
疊表、花莚
モスリン友禪
東京日本橋角
近江屋西川商店
電話本局特長九四八番　振替東京四四九九番
營業の栞御一報次第送呈

ヴェルダン第一線塹壕内にて食事しつゝある佛軍

◎浦鹽大火詳報 ＝原因は獨探か＝

▽軍需品倉庫より發火 ▽午後三時より翌朝四時に及ぶ

損害高約一千五百萬留

浦鹽港は今や露國のため唯一の輸出入港にして就中軍需品の輸入は多數を占め各埠頭及び倉庫埠頭附近の空地は悉く軍需品の置場に充てられ處狹きまでに堆積し人馬の通行も不可能の狀態に在り別して金角半島々端にあるエゲリシエード埠頭は倉庫は勿論其附近の黒龍灣に面せる山上の廣場は數露里に亙りて

▲軍需品專用置場▼

として多數の軍需品何れも天幕を以て蔽はれ累々として堆積せり然るに十八日午後三時十五分此等天幕倉庫より火災起り折柄の東北風に煽られ見る間に延燒し別けて此等天幕倉庫は綿の梱包大部分を占め外に護謨松脂等何れも燃料として誂向き貨物多かりしかば所謂油を火に注ぎたるが如く火勢は／＼

▲宛然荒野を燎く▼

が如く忽にして千二百五十シャージエン(我千七百六十間)四方に燃へ擴がり風力益々勢を加へ炎燄天を焦し黒煙金角半島を蔽ひ市中には黒灰を降らし天日爲めに暗らく市中の消防は勿論海陸軍隊何れも總出となり政百の支鮮勞働者を臨時に雇入れ先づ延燒の範圍擴大を防止する方針の下に

▲東西南北の四區▼

に分ち各々部署を定め延燒の恐れある附近の天幕倉庫は悉く破壞して之を他に運搬せしめ小蒸汽船馬車等を以て黒龍灣より海水を運び各所にポンプを据へ附け消防隊は此處必死と防止に奮鬪する狀況は戰場の光景其儘なりし如何せん火勢は風と共に益々猛烈を極め殆んど人力を以て如何ともすべからざる狀態に陷れり

▲夜に入りて火勢▼

一層猛烈を加へ月色暗澹光景悽愴を極む斯くて多數天幕倉庫は瞬間にして烏有に歸し午後十一時に至りて延燒の範圍は限定せられたるも餘燄は炎々遂々として尙ほ熄まず其全く鎭火したるは翌十九日午後四時頃なりし斯くて一晝夜の間に亙りて燒失せる軍需品の數は一萬噸以上に及び損害價額千五百萬留に達せり原因は不明なるも現場に於て大人小兒各一名宛嫌疑者として拘引せしめたるも放火者に非らざる事判明せり何れ獨探の所業ならんと(浦鹽)

◎間島に古都跡發見せらる

▲當年を偲ばしむる井然たる街衢 ▲金か高麗か＝興味ある新史跡

間島頭道溝より西南約二里西古城趾より南方約一里に八家子といふ人家二十戸の一部落あり北は海蘭河の上流に沿ひ南は山を負ひ所謂山河襟帶の地形をなせるが頃日間島總領事館員同地方に赴きたるに端なくも同地が古代の都市なりしを發見せり其談によれば南北約三百間東西千百間の

△墟跡は歷々

として今に存し史家ならざるも判斷し得べく當時家屋の上廓と認むべき殘影聯綴として依然たるのみならず規模廣大を極めたる市街の狀況は井然として恭然の目の如く其迹を留め千古の殘礎猶當年の俤を偲ばしむるものあり又當時の遺物たる礎石さては古煉瓦、古瓦其他建築に用ひたる石灰塊樣のもの等土中に埋まり發掘すれば

△破片現はれ

出づ此等を對照し推測するに當時の間島の中心は頭道溝平野にして此都跡は實に其中央を占めたるものゝ如し即ち西古城址は市街に對する第一線の防禦地にして海蘭河を經て北方の防備に供へたるものゝ如し其時代は金なるか高麗の盛時なるか史家の研究を要すべきが從來間島の古跡として普通稱せらるゝは東西の兩古城址並に東城子の三箇所にして此都跡は今回初めて發見せられたるものなり(間島)

◎伊達家美術品第二回入札

第二回の入札に附すべき伊達家所藏美術品五百點は此の程其の目錄作成に取掛り七月第一日曜日を以て下見を行ふ筈なるが第一回と同じく珍什尠からざるを以て買取希望者頗る多かるべき見込なりと(東京)

◎物集博士講演

聽衆一千頗る盛會なり

物集高見博士は二十五日午後一時三十分鎭南浦發列車にて來壤柳屋旅館に休憩午後四時より平壤歌舞伎座に於ける本社主催の講演會に於て約三時間に亙る長講演あり聽衆は平南教育會員實業靑年會員中學校女學校其他一般聽衆約一千に及び頗る盛會なりき博士は講演を終りたる後午後六時より各學校職員新聞記者の催しに係る武藏野の歡迎會に臨む(平壤支局電話)

◎雷雨中山道に迷ふ

京城[illegible]洞白[illegible]姉白甲順(三)は二才なる姉弟が所用にて三淸洞の山道を通行中前記の有樣なりし次第なりと

◎五罪倶發懲役一年

京畿[illegible]にて傷害、詐欺、脅喝、窃盗、家宅侵入等の五罪を犯し四月廿七日楊州[illegible]目松[illegible]健次(二)は二十三日午前十時頃附近の同じ年頃の幼兒二名と共に[illegible]張檢視の上賢父に引渡せり

切れ居り屍體は本町署より係員出

▲廿四日仁川入港櫻丸二[illegible]等客 青、中[illegible]太郎、[illegible]佳枝、同[illegible]子、外川ま[illegible]三等二百九名)

京城に何が欲しいか

我が京城市民諸君と共に講究したい大問題が吾等の眼前に橫はつて居ります。

京城は人口の上からも行政、金融經濟、交通、教育、衞生、其他の社會的の要素の上からも內地二三流の都市に比較し既に甚だしい遜色を認めない程度に達せんとして居ます。殊に朝鮮の首府としての政治的使命の如きは東京に次いで重要なる意味を持て居るのであります。然し乍ら新施設の後日尙淺い此京城には都市として幾多の圓滿なる發達を缺いで居る所のある事は何人も否定し得ない處であります。それならばその不足が何處にありますか。その不足を補ふ爲めに何が欲しくありますか。例へば公會堂、私立の男女中學校、劇場、圖書館、美術館、一般の日鮮人融和機關など數へ來れば枚擧に遑ありません。何が最も急務であつて、如何にして發起し、如何にして建設し、將た如何にして維持經營すべきか。我が二十五萬の京城市民諸君と共に眞面目に講究したいのは此問題であります

方法

一、投票 急務とするもの三件を一枚の端書に認め京城日報社會部宛投票せられたし

二、投書 投票の外に一件につき十六字詰五十行以內にて意見書及び其實行方法の投書を歡迎す

三、要件 凡て實際的の研究にして民度に適したるものたるを要す

四、締切 六月五日

五、有力者の意見 投票締切後に於て高點に達したる件に就て內鮮官民有力者の意見を叩き紙上に連載す

◎楊小石氏畫會

廿八日午前十時より明月館

平壤の畫家楊小石氏及び其畫友たる竹西女史の繪畫展覽會は愈來る廿八日午前十時明月館にて開催する事となり會費金參圓にて小石畫伯及び竹西女史の內何れかの繪畫を會員の希望に從ひ抽籤を以て頒つ筈更に其品としては小石竹西並に當日書畫會の興を助くる筈なる妓生の席上揮毫を一定の數を限りて分つ趣向なり尙ほ會員希望者は南山町骨董店佐々木兆二(電話二三三)方に申込まるべしと會員外の觀覽も自由にて其席にて加入申込に應ずと

◎俳優組合に頑張

若き女優に面會を求む

京城長沙洞金漢謨(三)滿井洞任貴石(三五)の兩名は十九日午後七時頃貫鐵洞の朝鮮俳優組合事務所に至り若き女優に面會を求むると頑張り立退かず組合長姜敬秀が立出で此處は遊興場にあらずと立歸るべく懇よく論したるに却つて食つて蒐り同人の著衣を攫み破り亂暴狼藉を働き手に了へざるより最寄交番に其旨訴へ出で警官出張し一先づ立去らせたるに更に再度立越し警察に訴出でたるは不都合なりとて石を投り込み貼紙を破る等の暴行を働きたるより再度鍾路署より警官出張して兩名共に引致し拘留處分となしたり

◎牛肉商に說示

本町署にて夏季衞生につき

京城本町警察署にては二十四日管內居住の內地人牛肉商全部二十餘名を同署に召集し衞生係主任より夏季衞生に關する注意事項、塵芥箱、骨藥箱の設置方並に牛肉運搬車の改造方に就き說示する所ありたり

都この頃

お上りさんの行きあたりばつたり、何を見るやら何を聞くやら自分でも判らぬことを、わからぬなりに、つまんで、書いて——。東京にて、高畫房

——出羽の海部屋

曉から滅切り寒くなつて霧のやうな雨が大路小路を降り罩めた十七日の朝、明日は初日といふ國技館の前に紹門の取り付けに忙がしさうなのを見ながら、泥濘道を一町許り本所警察署の橫を折れると新らしい二階造り、玄關の格子戸の上に一尺許の大名札、元氣のいゝ字で市毛谷右衞門。

▼舖石の上には三四十足の下駄やら足駄やら雜やらがキチンと取揃へられて、若い衆が一人下足番、玄關を突き當りの部屋の唐紙を明けると十二疊の座敷、神棚に燈明が輝いて居るには東郷大將の「武威」とある橫額ヅラリと敷いた座蒲團の上に、見物の洋服やら紋付やら夏羽織やらが、行儀よく並んで居る。

▼廣縁一枚を隔て、南は、三間に三間の稽古場、火の出るやうな稽古の最中、大小三四十の裸體が、土俵を取り卷いてる中を、今出て來た字代ろ／＼、激しく打突かつて行く。

▼稽古場の西、二十疊許の座敷の床の間には、八代海相の「汪然平靜」の大字の額の下に、角道の祖、武內宿禰の畫像の軸が掛かり、鴨居には常陸山が米國巡業の時に、彼方の畫家が描いた米俵に手足をつけたやうなカリケチユアが揭げられて居る。此座敷も、裏口からの五六十名の見物で一杯。

▼西の海が悠然たる巨軀をのそ／＼運んで來て、暫らく稽古を見て居たが、軈て單衣を脫いで、小角力に渡すと「恒！來い」と若常陸を引張り出す。卅二貫の未來の橫綱の身體が新橫綱の右の胸に打突かつては、毬のやうに轉がる。若常陸は滿身の汗に砂が附くので宛ら炭團、それでも遂々、大汗になつて、西の海を押し出したので、例の莊漠たる顏を無茶苦茶に崩して悅んで居る。

▼一人で氣合を懸けて四股を踏んで居た大錦が「おい、子供をとらせろ！」と叫ぶ。と、此間岡山から入門した許りの見るからに賢こさうな小角力が出て來て瞬く間に同じアンコを四五人當めて了ふ。大錦はその中の一人を捉まへて「お前の立ち方は駄目だ。ヤアと聲を懸けたら、アの聲の時には、もう、敵の方へ飛び込んでゐなければならん。お前のはヤアと言つてから、飛んで行くから駄目だ」と、頻りに手眞似足眞似で講釋をするので見物の間にクスリ／＼

▼西の座敷の隣室、衝立の蔭に床山に髮を結はせて了つた兩國が、大きな川を對手に、拳を打つて、悅に入つてると、だし拔けに「こんな忙しい時に冗談ぢやないよ。——よしんば、理屈があつたにしろ、手を出したからにはお前が悪いよ。」出羽の海の女房お信さんが奧から出て來て、白い顏の上に艶々しい丸髷を見せながら、一人の床山に小言を喰はせ出す。喰つてゝ方では、頭をかきながら無言で、「リ／＼」鼻血がドンドン出てるぢやないか。喧嘩は閑なときにしておくれよ。あごが煩さいぢやないか。」出羽の海部屋百十幾名の大男小男の手綱を取つて行くためには、お信さんの小言も無くてはならぬ力であらう。——午前十時。朝飯を濟まさずに來た見物は、そろ／＼歸り出す。

寸涯作畫展覽會

會場 朝鮮銀行の橫向ひ煉瓦建

會期 土曜日曜兩日二十七八日

御來觀隨意 島田寸涯

富安代議士の叔父さんに當る古賀花栖宗匠は先日野川大塊翁から「田植前の冥途行きは見合せた方が好い」といつた意味の俳句の電報を受け取つたにも拘はらず這回とう／＼病革まつて旅立ちして了つた▲そこで大塊翁の弔ひの句に曰く「殼ぬけて蟬や遊の壺かな」▲京城通信の大垣丈夫君は大塊翁が京城に來てから以來京城の人心が一變して小理窟をこねまはさぬ樣になつたは悅しいとあつて曰く「淸水ちよろ／＼大塊の下に涼味あり」▲また曰く「風雲腕底桑成章、十七字詞看錦膓、秋月春花非不美、爭如椽大筆端香。」と▲內地から來た人が朝鮮の「からすみ」が旅い「からすみ」が旅いと頻りに感嘆するからよく件の「からすみ」を拜見に及ぶとボラではなくて明太の「からすみ」であつた

東京大相撲夏場所星取表

(表中○勝●負×分▲預や休)

東の方

力士	星
西の海	○○○○○○○
大錦	●●○●○○○
對馬洋	▲●○○○●○
栃木山	●○○や○○●
兩國	●○○○○●○
九州山	○○●●○○●
源氏山	○●やややや や
宇都宮	○○○や●●○
驛迦嶽	●●○●●●●
紫雲龍	●●ややややや
小常陸	○○●○○●○
近江藤	●○●●●●●
岩木山	○●●●▲●●
大の川	○●○○●●●
宮城山	○●●×●●●
梅ノ川	●○○●○○●
朝綠	●●×●●●●
稲葉嶽	●○●●●▲●
四海波	●や○●×●×
龍ヶ崎	●○●○○●●
玉の川	●●●○○●▲
逆鉾	●○●●○○○
綾川	やややややや●
勝星	五十七
負星	七十七

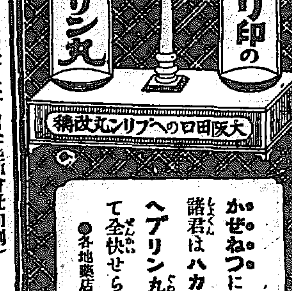
西の方

力士	星
鳳	ややややややや
太刀山	○○○○○○○
伊勢濱	▲●●○や○○
大蛇潟	●●●○○○●
浦の濱	●●●○▲○●
石山	○●○●●○○
大鳴門	○●●○○○○
玉手山	●○●●○○○
八甲山	やややや○●●
鳴戸洋	●○●×●●●
鶴渡	○○●○●●○
大戸平	○○○○○▲●
黒瀬川	○○○○○●○
響玉子	○●○●○○○
荒砂石	○○○○○○○
千年川	○●●○○○○
土州山	○○○●●●▲
稲の穂	●●×●○●×
紅葉川	○○○○●●●
明[illegible]	ややややややや
柏戸	●●○○×○○
敷島	●●○●○○○
朝潮	やややや○○○
勝星	七十三
負星	五十六

天[illegible]は

▲五月廿六日 西の風晴

内科
小兒科
醫學士 森定吉
芙蓉醫院
京城本町二丁目(瓦斯會社向側)
電話二六二三番



かぜねつに罹れる諸君はハカリ印のヘブリン丸を用ゐて全快せらるべし
●各地藥店にあり

夏物大賣出
外と見切反物
とせ切呉服
五月廿五日より五日間
京城本町二丁目
來永呉服店
電話六八〇番

蚤、南京虫には
商標登録 猿印 のみとり粉
うるさい蚊には
商標登録 猿印 殺蚊線香
効力確實醫科大學證明
內外國博覽會賞牌受領
製造始祖 上山靜藏鑑製
販賣處 各地特約店

[illegible]御不明となり大騷ぎをなして捜索したるも皆目分らず茲に翌々二十三日午後五頃頃附近なる李[illegible]なるもの甲順は二十一日午後留守中訳もなく山道に迷ひ行き滿二日間絶食せし結果身動きも出來ざる迄に衰弱し前記[illegible]

[illegible]右隣里李[illegible]方にて李[illegible]なる[illegible]を捕へ脅喝して金一圓六分を交付せしめたるを手初めに外二箇所[illegible]る所二十五日同法院に於て前判決取消し懲役一年の處分となりたり

●池に落ちて溺死　京城黄金町一丁[illegible]の[illegible]騷ぎに依り最寄りの長谷川町交番の巡査[illegible]駈付けて引揚げたるも既に絶[illegible]

[illegible]名）[illegible]廿五日岩村大次郎、篠崎きみ子、同秀雄、柴田[illegible]、吉野[illegible]、平福百穗、佐藤直太郎、林代嶽[illegible]浦清、根本芳造、同[illegible]、同寅子、同勉、竹內[illegible]三郎、宗像吉、荻野秀次郎、渡邊寛、山口英

●解警戒（五月二十五日午前九時二十分發）全羅南北道沿岸の警戒を解く

●忘れてはならぬ 出産の屆かた

□間違へば無籍もの

□京城で子供のお産れになつた場合は十日以內にすぐ府廳の民籍係に屆け出でねばなりません

□猶それと同時に日本內地の戸籍法にあるやうに十四日以內に直接原籍地の町村長宛に屆書を出さねばなりません

□中には京城府廳に屆け出たから內地の原籍地には不要かと思つてそのまゝに打捨つてあつた爲め子供が學齡に達して小學校に入學しようといふ場合戸籍謄本を內地から取りよせて見ると大事な子供は戸籍に入て居ないといふやうな事が度々出來ます

□その爲め小供を一年後れて小學校に入學させるといふやうな人が往々にしてありますから注意しなければなりません

□また內地の出生屆は十四日以內に出さねと戸籍法違反といふことになりますが朝鮮に居る人なればその際に發丈けは免れますが入學などの際に思ひ掛けぬ蹉跌などが出來る事になりますから手落なく屆出でがなければなりません(府廳渡邊潤吉氏談)

●住みよいハノイ

◇日本人はまだ五六十人◇

◇土人から尊敬されます◇

△女子大學卒業生なる高月一郎氏夫人千代子さんは先年夫と共に佛領印度支那のハノイに赴き農園を經營して居ましたが這回一寸郷里へ歸られました、また東京成蹊學校卒業生の廣瀬格彦(二九)といふ青年も今回岩崎男の後援で同地へ留學することゝなりました

△近來日本でも南へ！南へ！といふ聲が國民一樣に叫ばれて來ましたが同地は將來日本人が發展するのに洵によい土地と思はれます

△鐵路の加古揚護士も曾て同地に居られました相ですが非常によい土地だと云つて居られます、ハノイ市は人口十二三萬、建築はすべてフランス式で洵に美しうございます

△日本人は只今五六十名行つて雜貨商などを商賣して居ますが低級な人がないので可なり尊敬されて居る相です、生活はし易く物價は安く毎日夕方には暑さを洗ひ流す夕立が來ると申します

廉くて滋養になる玄米の重湯

□人乳の代用にもなり牛乳よりも優る□

◇むかしから重湯は老人や病人に用ゐられて居りますが近來は牛乳なぞよりも好いやうに言はれて居ります

◇現に病氣の爲めかなぞで乳の出ない方は人乳の代用として重湯を用ゐられる方が多くなりました、牛乳は往々消化が惡くて嬰兒の腸をいためたり下痢するともありますが重湯なれば大丈夫です

◇同じ重湯の中でも白米よりは玄米の重湯がよい樣です、生れたての子供には一箇月ばかりは是非人乳を與へなければなりませんが約一箇月も經てば胃腸が整つて參りますから夫からは一年と一二箇月の間は牛乳より重湯の方がよい樣です

◇重湯はどうして拵へるかと申しますと先づ玄米二合位を一晩水に漬けて置くのです、それを翌朝とりあげて文火に氣永に二時間か一時間半くらゐ煮ます

◇そしてお米が箸で潰れるやうになつたら火から下して熱いうちに裏漉しで漉すのです、さうすればどろどろの汁が出ますから其の汁に鹽と砂糖とを適當に加へて味をつけます、裏漉しは曲物に白木綿を被せたのが一番よい樣です

◇重湯は獨り子供ばかりでなく牛乳の嫌いな病人や老人なぞにも洵に結構な飲みものです

◇また玄米の煎つたのを挽いて粉にしておきそれを牛乳でときませて鹽と砂糖で味をつけお饅頭のやうなものを拵へると香ばしくておいしいカルヽス煎餅のやうな味ひのものが出來ます

●女子技藝速縫競技

△一番は木綿女物單物を二時廿三分間

南大門女子技藝學校にては廿四日午前九時から全校生徒の速縫競技會を催しました、その成績は第三學年の小野千恵子さんが一番で木綿の女物單衣を二時廿三分間に縫ひあげ次ぎが二分遅れて三年生の松井マス子さんが仕立あげました併し仕上げは松井さんの方が勝れて居りました爲めその方を一等としました、學校では參考に御覽になる方へは自由にお眼にかける相です

□新時代の女中　めちや吉

いくら女中だからと云つてうまく／＼お菓子を失敬したり、お尻なつめる計りが能ぢやない新しい女中は鍋磨や里芋の皮を剝くと早速の暇々で、學校で習つた手工を活用して、

ボタネの、牛もう／＼だの、鷹人さんだのを箸へで毎度お坊ちゃんの御機嫌を買つて居る手工はお婆様が云つた様に、貧乏した時に狀袋が貼る許りでなく、この新教育の余事はこんな所にも有る。

□高女同窓會の會歌　京城高等女學校の同窓會では今迄會歌と云ふものなく同窓會の時なぞは校歌を歌つて居ましたが今度會歌を作り二十三日の例會で歌つて大變ゆかしいものでありました

一、同じ學の窓のいとせ、ともにむつびし歡の庭な、忘れかれては訪ひよる門に、立つや木の茅よりかけて、いよゝまことの心をみがく、われ等がつどひ、さはに幸あれ

二、北に南に東に西に、立ちわかれても思ば同じ雁のおとづれ燕のたより、花のあしたも月ての夜半も、いよゝしのぶの心がよはす、われ等がつどひ、さはに幸あれ

●可愛相な捨子　遞骸生れた許りの朝鮮の男の子が一人街に捨見されて居ました、捨見は病氣の上に引取り手がありませんでした、東本願寺では可愛相に思つて引取つた上育てゝ居られます

婦人界消息

▲三島初枝さん(鮮銀理事令孃)　お父樣と兄さんの一夫さんと共に內地にお歸り中のところ二十四日京城に歸られました

—△會いろ／＼▽—

○京城女子技藝學校　六月二十五日同校卒業生の同窓會を催します

○京城小學校長會　二十五日午後一時半より府廳樓上にて開催

○英語クラブ　南大門通 青年會の英語クラブは每週一回ペンハート氏の指導の下に行はれる、第一回は二十五日夜八時から

○技藝學校の生花會　南大門京城女子技藝學校にては二學年以上の希望者に限り放課後生花の教授を始めます、教師は井上校長夫人が當られることゝなりました

演藝

▲大正館　二十五日より新派と差替えたりその主なるものは左の如し　△喜劇ブルマーの新兵△滑稽柔術なる聟△實寫青山飛行場に於ける鳥人スミス氏の冒險飛行△新派悲劇乳兄弟全三卷△探偵活劇巴里の秘密三郎全三卷七十八場

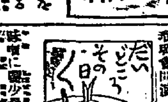
▲黄金館　二十六日より全部新寫眞と差替えたりその重なるものを擧ぐれば左の如し　△お伽噺埃及のアンチモニー△喜劇ルドルフの笑ひ△實寫伊太利噴火山△泰西活劇ムンロの秘密全三卷△舊劇南總里見八犬傳全六卷

▲浪花館　東京落語三遊亭圓遊一行にて開演中なるが引續き好評にて人氣を博し居れり

▲壽館　二十五、二十六兩日竹本奈良梅の淨瑠璃會出演

番茶のあと

鍾路の朝鮮宿屋の古い屋根に此の頃美しい花をもつた草が生へて居ます○東鄕元帥は此の總海軍部內の人々へ朝鮮の名將李舜臣の銅造碑を印刷して贈られました、李將軍は今の統營に居つて豐太閤の水軍を破つた人、その立派な海戰法は英のネルソン以上であるといふ事が解つたからだ相です○錦州では午も七十萬餘の馬賊がとれます○このごろはアカシヤの花が非常に美しくよい匂ひがします○京城女學校の女生徒方は近衛頭山榮牛先生の『榮牛全集』を多くお讀みになりますさは大阪朝日主人のはなし▲此の頃東京に來られた外交官の三人が、そろひもそろつて頭が禿なのは評判だ相です、三人の一人は新朝鮮大使タルベレスキー氏、一人は同一等書記官ハブリコフ氏、今一人はわが外務省顧問として故デニソン氏の後任に來られたトーマス、ペーチ博士だ相です。



回鮪の味附焼き　鮪は大概の方は味噌漬がおいしいと歡迎いますけれど味附の方が一層口當りが宜しうございます先づ普通の鮪を鹽少量と味淋と醤油を適宜に加へて暫らく中へ鮪の切身を一日位漬けて置きます、味噌の味が程良く泌みます其を味噌をさつと落し他の魚を燒くと同じやうに燒きます

商況

東京株式特電

二十四日 前場寄付 大引

日本郵船	—
京城電氣	—
鐘淵紡績	—
同新株	—
日本麥酒	—
東株第一	—
東株第二	—
東新第一	—
東新第二	—

債券現物特電

二十五日出來値段（前日との比較）

東洋拓殖	—
京城電氣	—
朝鮮銀行	—
朝鮮瓦斯	—
南滿鐵道	—

公債直取引特電

東京 二十五日出來値段（前日との比較）

五分利	八二、二〇
四分利	八一、四〇
甲號五分	九六、五〇

深川在米特電

二十五日現在高

朝鮮米	八九、一一九
肥後米	六六、六〇三
內地米	二、一四六、〇七

東京期米特電

廿五日前場七月限　寄付 高値 安値 止め　[illegible]

大阪期米特電

廿五日前場　寄付 高値 安値 止め　[illegible]

大阪株式特電

二十五日前場　寄付 高値 安値 止め　[illegible]

大阪三品特電

二十五日前場　[illegible]

下關期米特電

二十五日前場

五月限	[illegible]
六月限	[illegible]
七月限	[illegible]
八月限	[illegible]
九月限	[illegible]
十月限	[illegible]

朝鮮物産特電

豊山大豆	—
慶州改良	—
元山沖積大豆	—
城津大豆	—
鎭南浦大豆	—
長淵大豆	—
群山小豆	—
仁川大豆	—
宣川大豆	—
平壤大豆	—
群山上白	—
木浦大豆	—

雜報

●夏織物の反動高　本年の夏織物界は四月の最盛期に至り頃に不振に陥り引續き不況を持續したりしが夏織物晩季の五月に入りてより反動高を現はし伊勢崎銘仙先月末の最低相場より小一割餘を返し其の他各品も[illegible]

各地商況

●綿布續て低落　大阪一般に經史の成行を示し綿絲布も漸く[illegible]如き成行を示し[illegible]居れり

●更に五錢安を報ず　四日の四圓五十七錢五厘といへば高値より約四十錢近かく低落なり

●砂糖界の其後　[illegible]

●錢以下の賣物稀れ　[illegible]十二圓六十[illegible]

●倘一層割安　[illegible]

●洋鐵と洋釘　四五十錢方漸落　[illegible]

●一層人氣を惡化　[illegible]

●亞鉛線更に安し　[illegible]

●五十錢の低落　更に一圓乃至二圓　[illegible]

●鐵板逆戻り　[illegible]

●前回の値上　丈を下戻　[illegible]

●平壤米穀相場　[illegible]

●新茶漸次出廻る　新茶は追々入荷増加し最早玉露正喜撰等の初摘もあり近く產地の相場も定まるべし昨今の氣候不順は二番茶及び三番茶の摘採に影響し多少影響あるべきやは不明なるも昨今貿易筋の一服來なる折柄故は此邊相當の買附時期ならんやも測られず

下關相場

▲朝鮮白米は居据り　依然買氣遲まずして兎角賣れ行きの鈍き[illegible]

▲大豆は失張底強し　本品は昨紙記の如き事情の下に[illegible]

▲小豆は依然保合　[illegible]

各地商況

●釜山（二十四日の穀物）[illegible]

●大邱（二十四日の穀物）[illegible]

●木浦（二十二日の穀物）[illegible]

京城正米

[illegible]

南大門の廻穀

平澤玄米	九四叺	金村
鳥山玄米	二〇三叺	郭山
烏山玄米	一五〇叺	余錢白米
一山白米	二五叺	鎭川白米

仁川現物市場

▲輸入米 二百餘俵[illegible]

▲正米入津なし氣配依然保合

▲大豆入津なし氣配保合

仁川米豆取引所仲買人

まるにち

⑪仲買店

支配人 土居勝

電二八二番　圓二八三番

生魚市場

前日と同樣入荷至つて少なし從つて各魚共に更に小高き氣配なり[illegible]

仁川期米

▲二十五日前場　十四錢と變らず入電に二節十五圓二十九

▲錢と安移[illegible]

市場零聞

▲前場小變動　[illegible]

仁川米豆取引所

二十五日の七月限

前場		平均値段	
寄付	十三圓三十三錢	一節	十三圓二十一錢
止め	十三圓十錢	二節	十三圓十六錢
高値	十三圓三十三錢	三節	十三圓十七錢
安値	十三圓十五錢	四節	十三圓十七錢
出來高	一萬四千七百石	五節	十三圓十九錢

賣買取組高

五月限	九百石	
六月限	四千七百石	
七月限	二萬二千四百五十石	
二十四日後場	[illegible]	前日比較

▲雪崩れたる二十五錢

▲丁度跳返して三十錢

▲依然保合ひ

▲氣迷の裡に目先小競合

▲倘小相場乎

▲方の見送りと二十臺は買

▲行を示す材料の缺乏為に底強き成り

▲前場の商內

▲正米と期米

▲大に割高を感じ

▲十錢乃至二十錢

▲理想に過ぎず

▲聯合買の説

演藝案內

黄金館　黄金町四丁目　電話二六三七

天然色活動寫眞株式會社滿鮮一手代理店　五月二十六日より差替大寫眞　お伽噺埃及のアンチモニー◎喜劇ルドルフの笑◎實寫伊太利噴火山　有名なる冒險家ジョンフアルマン氏決死の撮影に係るものにして伊太利各噴火山の狀況を詳細に撮影せるもの◎伊太利チネス會社大傑作◎泰西大活劇ムンロの秘密　全三卷　ムンロの秘密！そも如何なる秘密の伏在せしぞ　內容は云はぬが花、そもムンロの秘密とは何ぞ　天活會社秘密寫眞◎舊劇南總里見八犬傳　全六卷　曲亭馬琴の大傑作として古今東西に其名を知られ演伴優は東都に於ける名題俳優のみの大顔合にして天活會社が最近苦心の撮影に係る大フヰルム

壽座　本町　電話五七八

五月二十四日より　新派　夜光の玉　喜劇　忠臣藏六段目　勸平　裁判　茶屋場　掛合　午後六時開幕　藝題　笑樂會

浪花館　明治町　電話二六〇番

東京落語睦派三遊組合頭取　三遊亭圓遊一行來る　十七日より每夕午後六時開演　▲落語（三遊亭遊二）▲落語、手踊（三遊亭遊六）▲落語、音曲（三遊亭遊楽）▲落語、德利踊（三遊亭遊寶）▲落語、笑話（三遊亭圓花）▲落語、盆の曲（三遊亭遊枝）▲落語（桂東兵衛）▲東京歌舞、女道樂、長唄、常盤津、手踊（東京立花家遊菊、遊の助）▲滑稽、人情、笑話、音曲、流ステ、コ踊（三遊亭圓遊）○晴雨不論每日午後六時開演仕候

大正館　櫻井町　電話八七三

五月二十二日より新寫眞提供　○喜劇ブルマーの新兵○滑稽柔術なる聟○實寫青山練兵場に於ける鳥人スミス氏冒險飛行　▲立井貞次郎棚橋遠一主演　○新派活悲劇乳兄弟（日本クレオパトラ）全三卷　○探偵活劇巴里の秘密（原名伯爵）[illegible]　○江戶の俠客腦の喜三郎　[illegible]

御成座　町　電話一九一

市川海老松 阪東龜鶴一座

二十六日

前狂言 加賀見山故郷錦繪 五冊

切狂言 後の皆我二度の歟皮 一場

役割 [illegible]

入場料 一等四十錢、二等二十五錢、三等十錢

工事入札

一、橋梁修繕工事　京城府築町旭川筋

此入札保證金各自入札金高ノ百分ノ五以上

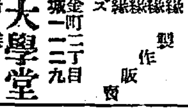
入札者ハ京城府ニ於テ國稅、營業稅又ハ戸數割年額三十圓以上ヲ納ムル者ニシテ滿二ケ年以上斯業ニ從事スル者ニ限ル

右入札ニ就キ希望ノ者ハ本府會計係ニ就キ入札心得書、契約書案、仕樣書、圖面、現場等熟覽ノ上五月三十日午前十一時限リ同會計係ニ入札スヘシ、開札ハ即時

此契約ハ朝鮮總督府府尹金谷充擔當ス

大正五年五月二十四日　京城府

各眼病院眼科醫指定眼鏡調製



眼鏡專門

▲定價表を發行致居り候

▲眼鏡に關する御照會を賴々歡迎す

宮川大學堂

京城黄金町二丁目

振替京城一二九

各種レンズ　金銀赤銅張　金緣　製作販賣

ハガキ一枚で

女の心得て置かねばならぬ「婦人の寶」と云ふ美い本と女の病の最良藥一日分とを

無代で進呈す

女のタスリ

女も男も見逃しならぬ

大福音が此處に御座います……ソレハ何であるか……

先づ此記事をヨク／＼讀まねばなりませぬ。サテ世間には一口に婦人病と云ふ子宮や血の道の病に罹つて難儀して居らるゝ御婦人が澤山ございませう、又ソウ云ふ婦人を妻として夫婦の仲に子寶が得られぬのみか、ヤレ頭痛がするの、目眩がするの、こしけが下りて心地が惡いの、月經の毎にお腹が痛むのと云つて、常に青い顔をして居るのを見ては、夫たる男の身にとつても中々辛いものでございます。實に此の婦人病と云ふ病氣程女の一生を不幸にするものは御座いません、未だ獨身の內で。月經が不順だとか僅かばかりこしけが下る位の事で他に左程の苦み無き方は別に心配もなさらず、少し位のこしけは女には附物だと云ふ樣な調子で平氣で居られる方もあるが、之れは大きな心得違ひで油斷をして居る間に其れが次第に甚じて色々の苦痛が起るのでありますると婦人病の人に多い容體をザツと申上げ

●いつも月經が早くなつたり後れたり●月經時に下腹痛み●平素ねばりあるこしけが下り●下腹筋張り胸つかへ●足腰引つれ又冷ね●頭痛はする眩暈はする●手足先冷ね顏ばかり氣持惡しくほてり●腹に毬の樣な塊が出來●少し根つめ仕事でもすれば押付けられる樣に春肩凝り●悲しい樣な嬉しい樣な心の苦み●少しの事に腹が立ち泣きたくなつたりクヨ／＼したりする……と先づ斯樣な容體に苦むのですから、いかでか樂しい月日が送られませう、ソレデ多くは夫婦の鎹ともなる子供が出來ぬから從つて

夫婦喧嘩も起れば

夫婦別れの憂目を見る方さへある位です。とても／＼女に取つて恐るべきは婦人病、悲しむべきは子宮血の道の病であります、所で私は此のつらい悲しい婦人病に惱まされ泣いて暮して居る世の澤山な御婦人方の爲め如何にもして此病に効の著しい藥劑を製劑したいものと種々研究致しました、殊に自分が此病氣に就ては實地に苦勞した事もありますので隨分苦心致しましたが、漸くにして之れならばキツト効めは確かである、キツト世間の不幸な婦人病者が喜ばれるであらうと確信される藥劑が出來ましたので、之れをピホーと名けて先に世の中へ發表致しまして、今や非常な大好評を受けて皆樣より

實に効めが著しい

今迄に無い良藥である

等と多大の賞讃を得て居ります が、私は尚ほ此上一人でも多くの方に、婦人の寶やピホーの著効をお知らせ致したいと存じまして、今度只だ一枚のハガキで申込ば、此ピホーを試み用として一日分と女の心得て置かねばならぬ「婦人の寶」と云ふ美本とをドナタでも無代で送呈することゝ致しましたから、未だピホーを知らぬ方は一刻も早く御申込なさいませ、世間には「之れまでにモー散々藥も浴びる樣に飲みても一向効かぬのだからピホーも駄目ではないか……」と思召方があるか知りませぬが甚樣に自分の病氣を治らぬと斷念めて了つてはいけませぬ、殊に効めの無いツマラヌ藥なら假令一日分でも無代で進呈するなど威張つた事は云へませぬが、確に効く良藥であると云ふ堅き信念があるからこそ斯樣な事が出來るのでありますから此邊をよく御考へ下されて兎や角と引込思案をして居ずに寸時も早く申込みて女の最大幸福を得られよ、善は急げと云ふ事があります

東京九段下九十三（電話番町二八八二）電車停留場前

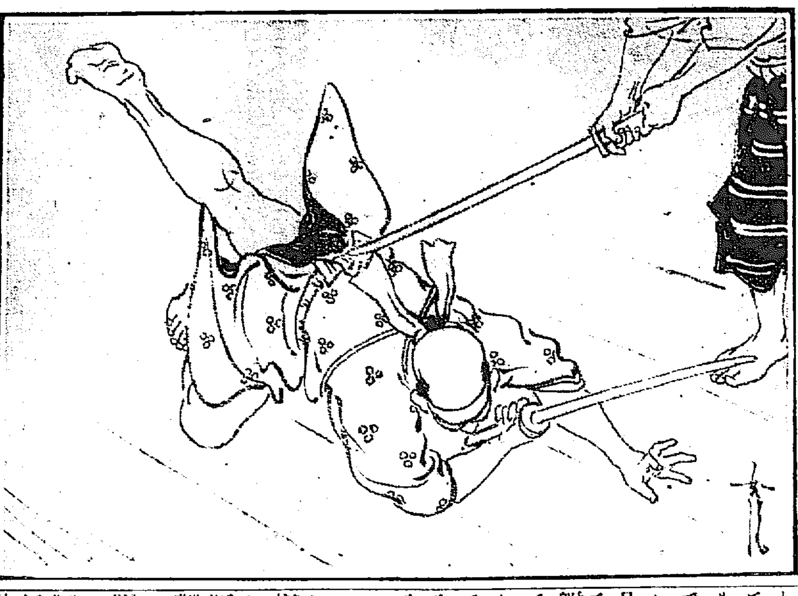
橋本健藏

宮本武藏

第四十九回

桃川如燕口演
浪上義三郎速記

浦邊の門弟が大勢で態々清十郎を引張り込んだ、清十郎は先生は兼て他流試合をしてはならぬと仰つしやつたが私の方から望んだのではなく向ふから望んで來たのだから宜しい其では日頃稽古をして置いた腕前を見せてやらうと思つたから 清「ホンの木劍の持ちやうを覺ねましたゞけでありますから何卒お手柔かに願ひます」といふと己れが對手になると云つて十八九の男、支度をして其へやつて來た、ヤッと云つて向ふから飛込んで來る奴を清十郎引ッ外してスポン小手を打つた○「參つた」又一人代つて出て來た奴を之れも打据へ、入替り立替り四五人を打据へました、清十郎鼻高々として 清「サアお後を願ひますドウカお後を願ひます」と云つたが誰も出て來る者もない、浦邊藤藏先生は御飯を食べて居つたが一人の弟子を呼んで 藤「なんだ御後を願ひます、お後を願ひますと云つて居るのは……○「誠に恐入りました、斯う〳〵云々の譯でございます 藤「さうか、いま〳〵しい奴である、此儘に歸せば道場の寂れになる、己れが一本相手になつてやる」と云つて浦邊藤藏道場へやつて來た 藤「お前が清十郎と云はつしやるか 清「左樣私しが搗米屋清十郎を申します 藤「中々剛い腕前だ、今日は初心の人ばかりでお前の相手をしようと云ふ者は無い、私が一本お前の相手になつてやらう 清「何分どうか願ひます」清十郎の了簡では、弟子を三四人も打込んだから浦邊藤藏も打込んでやらうと思つた、誰しも慢心のない者はないが、上手にやるやうでも昨日一昨日初めた清十郎、此方は出來ないといつても三百人からの弟子を取立つて居る浦邊であるから同日の論にはならん、そこで双方道場へ出て、木劍を構へたが、浦邊は突然清十郎の頭を打つた 清「參つた」と云つて後へ退ると、聞かない振りをして浦邊藤藏が下から救ひ上げたものだから腮の下を打たれた清十郎アット云ふ途端に唇を食切つた 清「參つた」と云て退がる奴を胸から腰へかけて打ち續けた、夫れへ倒れて清十郎 清「參りました、恐れ入りました 藤「大分血が出る樣だな、生兵法大怪我の元といふのは之れだ、俗に鵜の眞似をする烏水を飲むといふのは是れだ、以來劍術をする事は止めろ 清「ヘッ……」藤「弟子の腕前を見れば大體師匠の手の中も分つたものだ、殘念なれば何時でも仕返しに來るやうに……早く歸へれッ 清「ヘッ…… 藤「コレ〳〵大分道場に血が流れて居る掃除をして置け……」弟子達は掃除をなし塵を持つて來て跡を淸めた、清十郎は顋の下を打切られ唇を食切り委々として出て行きました 藤「樣を見ろ、笑つてやれ〳〵」と云つたから、一同の門人道場の羽目板を叩いたり、手を打つたりして可笑しくもないことを笑つて囃し立つて居る、清十郎宅へ歸つて來まして殘念に思つたが仕方がない、此の怪我が癒ほつて仕舞つたら浦邊藤藏の道場へ仕返しに行つて呉れよう如何にも殘念である藥位ゐでは追付かないから醫師に掛り洗藥を貰ひ膏藥を貼つたりなどして居る、何分唇を食切つたから御飯も碌々に食べる事が出來ない、そこでお粥を炊いて冷まして啜り込むといふ譯になつて來た、吉岡先生は一日丈助が清十郎の處からお米を取つて參りましたから 吉「どうした清十郎は…… 丈「代りの者がお米を搗いて居ります、お内儀さんに聞きました處が清十郎は怪我をしたと云ふ事であります 吉「ハ、ア何うして怪我をしたのだ 丈「何んだか轉んで怪我をしたといふことでございます、吉「お前が見て來たのではないのか 丈「私しは見て參りません、お内儀さんから聞いたのです 吉「然うか、其では是から己れが見舞に往つてやらう」とそこで先生羽織を著大小を指して今出川の道場を立出で出水日暮搗米屋清十郎の宅へ來て見ると代りの者が米を搗いて居る、傍にお内儀さんは糊だらけになつて働いて居る 吉「免るせ…… 女「オヤ今出川の先生で入らツしやいますか、サアお上り下さいまし」と吉岡先生を奥へ通しまする



◎日本少年(六月號)東京實業之日本社發行の『日本少年』六月號には『山中の怪火』と題する一大冒險小説あり勇男に富む少年が其妹の行衞を探す爲に山中の悪漢と戰ひ九死に一生を得て妹を岩窟より救出す筋にて秩父山中に特派したる寫眞師に依つて撮影したるものにて目前に活劇を見るが如し其他有益の記事極めて多し

五月廿七日九星
舊四月廿六日甲子
本命九紫南角大安

▲九紫 大利を捨て小利を取る如き事有日 新事見合四方は吉 晴劍南▲一白 ■りのつかぬ事有日 新事手控 萬事快樂は勁なし▲二黒 巧名を顯す日 轉居入門金件名弘求職 建築祝事 願山梁吉▲三碧 折合よき日 轉居開業入學求職金件 鎖新將許出願 鍼普吉▲四緑 上鎚の日 男子は常の望を顧へ 女子は思はぬ耳緒を甑る 萬吉待人來る▲五黄 貴人の助力を得て物事成就する日 萬道で利有 殊に緣を求るに妙▲六白 取柄なき事有日 新非手控萬事は吉 衛生に注意せらるべし▲七赤 慾心狙の事有日注意 新事手控萬事は吉 一切のせわ事せぬがよし▲八白 利益有日 轉居旅行入學名弘 金談求職 山 漁 船 證 識 祝 …吉

京城大和町三丁目(不老泉藥湯前)
内科 小兒科
中谷醫院
電話一〇三三番

りん病
淋病で困る方 多年の慢性も
自宅にて人知れず安全秘密に治癒す
良藥あり只一劑を試よ切手三錢送れ
其良藥と自宅療法の詳細を報す
名古屋市南かじや町 武藤龜吉

花柳病 外科 專門
◉梅毒 ◉淋病 ◉泌尿生殖器病
◉翠丸病 ◉肛門病 ◉皮膚病
◉婦人病 ◉神經衰弱
◉六〇六注射 包皮其他手術 每日
◉診察無料 ◉入院隨時
京城南大門通農工銀行裏
司生堂醫院

安全コクオー
無害
東京大阪 各衛生試驗所試驗濟
特長 まけず かぶれず てまいらず はげず よごれず まつくろにつやよくそまる
京都大阪神戸 大典博覧會 金銀賞牌授與
大阪 高橋盛大堂
志から赤毛そめ

賛化病院
京城本町二丁目 電話二四番
内科 小兒科
入院隨意
毎日五名を限り無料施療す
醫學博士 古城憲治
小兒科 醫學士 上野亮藏

御園紙おしろい
旅行、散歩、訪問、宴會、芝居などにお出掛けの時は、必ず御園紙白粉をお忘れなさいますな、化粧崩れ顔直しが美しく手輕に出來、そして芳香は床しく肌を荒さず、懷中用として此上もない便利な化粧品は御園紙白粉であります
定價壹册 金拾五錢

化學的に齒を強く美しくする理想の齒磨は
クラブ齒磨
クラブ齒磨出て初て日本製齒磨の權威は世界に認められたり

博士の齒磨評

最新 最良のクラブ齒磨出づる迄は……齒磨の多くは頗る粗悪にして殆んど眞の齒磨たる價値なきものなりき。其の内外に輸出せられしものも亦た少からざりしと雖も、中流以上の人士は決して之を使用せず、殆んど文明社會の顧る所となる能はざりしなり。當時帝國大學教授にして侍醫局御雇たりしベルツ博士は齒科大學教授其他の諸學者に語つて曰く「日本の齒磨は海外にも相當輸出されて居るが、品が非常に惡いので、齒の爲に甚だ宜しくない、實に無責任の品である、一体何を原料に使つて居るのか、云々」……而も品質の優秀なるクラブ齒磨出づるに及びて、斯の如き非難は漸く跡を潜め、歐米の高級齒磨の多くを凌ぎ内外の醫學者間にも厚き信用を博せる日本の齒磨は初めて文明社會に其の權威を認めらるゝに至れるなり。此のクラブ齒磨は二十種の貴重原料を配合し、極めて嚴密なる監査の下に謹製せらるゝものにして、品質の精良全く類を見ず、化學的に齒を強く美しくする理想の齒磨として、名聲頗る内外を壓しつゝあり。

京城日報

第三版

廿六日朝刊（夕刊と合せて八頁）

定價 本紙一部金三錢 一ヶ月金五拾錢 郵税共 [illegible]
廣告料 ▲五號活字一行金七拾錢 [illegible]
發行兼編輯人 奥田直 [illegible]
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
電話 [illegible] 振替貯金口座 京城一〇〇番

大阪株式 [illegible]

大阪三品 ▲二十五日後場 [illegible] ▲後場寄付十四圓〆八錢止め十錢 ▲先限寄付十五圓 [illegible]

仁川米豆取引所

廿五日の七月限 [illegible] 三百石 [illegible]

支那の形勢

京城日報

曩者北京に於て、段祺瑞氏の責任内閣成るや、南方雲貴二廣聯合政府も亦成立し、南北朝對立する中間に、馮國璋、張勳、倪嗣冲諸氏の中部勢力の發動を見る。近報南京會議に關する電報頻々たり。其成敗如何は今遽かに睹るべからずと雖も、中部勢力の目的とするところは、則ち南北を調停して、其全部を收めむとするにあるや論なし。

乃ち最近の支那は、南北中の三勢力鼎立の姿なりと雖も、三者何れも相當の根據あると同時に、又其各弱點あり。北京政府は財政の困難甚だしきのみならず、袁大總統と段内閣總の關係亦面白からず。近報段内閣總辭職の事を傳ふるを見ても、其前途甚だ懸念すべきものあり。之に對して南方政府は新成の勢に乘じて、意氣甚だ盛なるものあり。其の北伐の叫の聲は、則ち甚だ大なりと雖も、其の地位甚だ偏局、其の金力兵力亦極めて乏しきもの、如くなれば、其の功業は蓋し容易ならず。若し其れ中央勢力に至りては、其の發勢極めて大なりと雖も、其の内部の不統一、言語に絕するものあり。其の踏蹉逡巡するある能はざるは、決して其の故なきにあらず。

而して袁大總統は、大勢の既に不可なるを知りて自から退くの意ありと稱するも、現在の三大勢力なるもの、情形今日の如くなる間は、果して退隱を決すべきや否や覺束なし。所謂中央勢力なるもの、中にも張勳、倪嗣冲二氏の如きは、今猶ほ袁氏擁護を提倡しつ、ありと云へば、或は南京會議なるものは、袁氏の退位を促がさずして、却て其の決行を妨ぐるの結果を齎らし來るやも知るべからず。然りと雖も袁大總統にして、其地位を去らざる限り、支那の政局に新面目を開き來るべからず。其紛爭は益々混雜を極むべきなり。初め支那南北相對立するの日に當りて、世間或は南人の國内を一統して、共和政治を實行すべき事を期待したり。然れども其力自ら限りあり、南方偏安の計は或は定るべしと雖も、國内一般の望みは殆んど之れ無し。或は又北京責任内閣の賢望能く狂瀾を既倒に回すべきことを望みたれども、其窮窘爲すなき今日の如きに至りては、誰か此に失望せざらむや。而して中間勢力なるものは、初めより調停を目的として起りたるものにして、自ら一統の業を企つるものにあらず、其の一部は袁氏を退くるに依つて、其地歩を占めむとし、他の一部は袁氏を擁護して、以て自己の權勢を張らむとす。其取る所甚だ區々なり。恐くは一も其目的を遂し得ずして已まむか。初め關係列國民中、或ものは南方を喜び、或は北方に傾くの情ありたれども、斯く雜擾を極め來りては、復た手を著くべき所なし。嘗て窃かに干繫せるものも、今は手を退きたりと云ふ。然れば今後は支那人間紛爭に紛爭を重ぬべく紛爭者皆心力を盡くし、且失敗、又失敗、各々爲すべからざるに及びて、自ら其歸趨を知るを得んのみ。

ヴ塞攻撃眞意

●帝都より申上候●

○獨逸は十九日以後再びヴェルダン攻撃開始致し候其覘ふ所は矢張り要塞西南方の三〇四高地にして佛軍の爲め再び擊退せられたる由に候へ共獨逸が何故に再三再四執拗の强襲を行ひ犧牲を吝まざるかは研究すべき問題に候。

○獨逸にしてヴェルダン要塞を攻略せんか其軍隊は西漸して巴里を押へ主力を佛國の西海岸に突進せしめ英國の海岸を脅嚇するの策戰に出づべきは見え透きたる魂膽にして事爰に至れば佛國は泣く〳〵單獨媾和の外途なきを推定したるに外ならず候

○一體要塞戰は戰術上原則として攻擊軍は守備軍に對し三倍以上の優勢を以てするに非ざれば攻略覺束なきは泰西戰術家の定めたる所に候

○然るに今回のヴェルダン攻擊は佛軍に對し三倍は愚か兵力寡少なるに拘らず漸次一壘一角を陷れつゝあるは注目すべき現象にて獨軍の攻略を斷念せざる一因は實に此點に存し候

○進で獨軍は此要塞を攻略する能はざるも尚ほ其副產物を期待し居候即ち獨軍は西方戰場たる佛國アルトア以北の英佛軍に對し此戰線を突破せんとの畫策に候

○佛軍のヴェルダン要塞に蒐集したる兵力は詳かに之を知る能はざるも補助として新兵をヴ要塞に集めたる事既に三十師團以上にして此外西方戰場中比較的閑散なる後方線の軍隊を集中したるを以て西方戰場の佛軍の防禦は非常なる薄弱を來したると共に英軍の守備兵は其補充として多大の延長を來し戰略上不利に陷れば見逃し難き事實に候

○以上の事實に依り左の結論に達するは免れ難き所に候

一、獨軍がヴ要塞を攻擊するは英國を脅嚇するの前提たる事

二、獨軍がヴ要塞を攻擊する能はざるも佛國の兵力を此要塞に集中せしめ西方戰場の缺陷を捜して突破を企つるの豫備たる事

三、三月頃より英佛軍聯合して攻擊的策戰に出づるの計畫は此の牽制により水泡に歸したる事

兎に角ヴ要塞攻擊は聯合側に取り戰局前途に多大なる困難を惹起せしめ候（二十二日）

日本文化の淵源（六）

文學博士 物集高見氏講演要領

文明と僧の貢獻

昔學の僧は叡山や三井寺等の維摩會などの大會に食が足りないので、增食を言ひ出した。然らば其樣な大會の時に限り非時を許さうと云ふ事にした。然るに又夜行が始まる、宵から朝迄頭を袈裟で包んで維摩の放論を遣るのだが怎も腹が空つて來る盜み食ひは僧が在つて戒めてあるし其れに食ひ物に依つては放論中に小便に立たなくてはならなくなつて不便だ即ち智慧を絞つて考へ出したのが今の納豆である。

△袈裟の下に潜ませて置いて各自に秘かに食ふ樣になつた。昔の通は齋に非時として納豆などで非時が出る樣になつてから又食を增せと云ふ事になつた昔は此樣な調子であつたが源平時代以後非常に亂雜になり有りさへすれば何時でも食ふ樣になり遂には俗人より餘計食ふ樣にさへなつた然くて佛學研究も衰へ厄介者扱ひにされて到頭信長から亡ぼされるに至つたのである——然し日本の文化に僧の貢獻した事は非常なもので若し僧がゐなかつたら日本の文明はどうなつてゐたであらうかと私は時々思ひ出して見た

▽僧の初めた者を集めて見た事がある其何百何十となき事物を日本の文明から取除いて見ると後には野蠻時代に似たものが殘る○其僧に對し荻生徂徠や中井履軒等が罵詈した事は世人の知る處である。○履軒の曰く、僧は釋迦の前に經を讀むが其調子で行けば我々は孔子の前で論語の註釋をしなければならなくなる、又僧は死人に對して經を讀んで聞かせるが怎も其譯がわからぬ、と嘲つた。徂徠は昔義經は三井寺に登つて普門品をさり自らは甲の聲で拜麗に乙の聲を出させ甲乙々々の讀經をなし其經を聞いて千人の男女が泣いたと云ふ事である、なぞと云つてる。

▽是等の嘲罵に對して昔から佛家の誰一人一矢報ゐた者もない私は嘗て曹洞宗大學林に招かれて何か話せと言はれた時此事を話し私が代つて徂徠、履軒に答へた事がある。一體今日の讀經は昔の儘のものではない今日でこそ釋迦に說法の容があるが決して最初はさうではなかつたのだ。昔は伽陀と云ふものがあつて經の中から仕組んだものを迦陵頻伽の聲に合せて聲明したものだ夫れが世に廣がり讀經と謂されて日本などにも渡來した。梵讃、漢讃、和讃である。然し此讃りでは短か過ぎるものだから奈良朝の初期時代から經文中の一部を朗誦する事と爲つた

▽其伽陀の節は非常に難かしいのを節博士が巧みに節をつけて朗誦し之を聞けば聞く人の頭腦を刺戟して思はず泣かせられると云ふ事である。昔行基菩薩は其爲めに危く咎人にならうとした其れは或時行基が頻りに伽陀を誦してゐると通行の人が皆立停つて泣く了度其處を通りかかつた政府の役人が此聲を聞いて又佇むでしまつて泣き出す百姓が鍬を捨てゝ泣く子供も家の中から驅け出して來て泣き出すと云ふ騷ぎである政府の役人は大事な用を持つてたので早く其場を去つて用をしなければならないのに仲々泣いて去らぬ仕方が無いから其役人を迎へに人を派した其の巡査が又

▽聲を聞かされて泣き出してしまふ是れでは仕方が無いから苦の聞き分けのない畜生ならばと云ふので牛馬を放つたが其牛馬が又側近へ行くと此聲に聞き惚れて佇んで泣き出した。其内に行基も聲明をやめて去つたので一同初めて夢が醒めた樣に皆な我にかへつた——と云ふ樣な話が今昔物語に書いてある。其れが源平時代には右の如く義經がやつてゐる。其頃は僧許りでなく俗人もやる樣になつてゐた。小式部の内侍は夢殿の禮に此聲を聞いて思はず寢返りを打つたなどと書いたものもある。天子が擧、笛に合はせてやらせた事もあると書たものもある。其が

▽應仁の大亂に兵燹に焚けて法が斷ねてしまつて淨土宗に少し其節が殘つて居つたが其れも遂に何時となく亡びてしまつたが即ち伽陀の法は消え失せたが僧が佛前に出て默つて唯木魚を叩いてゐるのも變だと云ふので經を棒讀みにする事が初められるに至つた。徂徠、履軒の嘲つたのは此讀經の末期のものであつて抑もの讀經の歷史を知らないものなのである。

三道隨行記

中島生

十、新綠の大邱

○十一日夕、市民の熱誠なる歡迎裡に大邱に著し、道長官々舍に入りたる寺内總督は、十二日午前七時より青葉の大邱を巡視したり。

○先づ道廳に於て廣く官民を接見し殖產興業の事より内鮮人の融和に至るまで懇々訓示を與へたる後、警務部、慈惠醫院、府廳、專賣課出張所、蠶業講習所、裁判所、監獄、各學校等を逐一巡視し、正午には道廳樓上に於て重なる官民四十餘名を招きて午餐會を催ほしたり。

○此日余は旅宿に於て圖らずも日本通信の此經岳陽子が飄然として京城より來れるに會せり。岳陽子は、今回の總督巡視に、沿道隨行せざる代りに敬意を表して大邱まで來れる也。好伴侶を得兩人同道して午前は巡視に隨伴す。

○余が大邱を見るは、これが最初なり。さり乍ら半日の視察は大邱の大綱すら掴むの遑なく、特に余等を迎へて好遇至らざるなき大邱人士の爲めに、充分の紹介を今日に致す能はざるを遺憾とす。

○然れども、大邱は從來慶尚道の政治的主腦地たりし關係より、夙に釜山の勢圈より脫却し、交通の便を藉りて、其の商權は四方に向つて伸暢し、市場の殷賑眞に目醒ましきものあり。○附近の地味肥沃にして農產豐かに、内地人移住者の增加に伴うて果樹栽培事業勃興し、且煙草製造事業等の著しき發達を見たり。加之彼の既に成立して近く工事を起さんとする朝鮮輕鐵の開通して、浦項、蔚山方面との交通が自由たらん曉には、而して又師團增設の效果の現はれ來らん曉には、大邱市街及び其附近の發展は非常なるものあるべしと豫言するも、必ずしも空な批辭に非ざるべしと信ずる也。

○余が將に大邱に到るに先だち、同地にては隨行記者團に對する盛大なる歡迎會開催の計畫あるを聞き、京城よりは余只一人のみなるに、今更歡迎會はと、内心恐れ入りたりしが、到著後泉屋旅館に入るか入らぬに、早や有志の人來りて、主人側は揃うて待ち草臥れ居れり、大邱時間は勵行の事と、其儘拉しで「やまと」に連れ行かる。

○旗亭二階の大廣間には、五十餘名の官民有力者既に居並びてあり。朝鮮民報の河井社長より叮重なる歡迎の辭を頂戴したるにつけても、京城の客余一人なるを御氣の毒に堪へざりしと同時に、又一騎當千の嵐に入るの心地もしたり。當夜官民の諸君が貴重の時間を割いてまで余を遇せらるゝの頗る篤かりしを光榮とし、永く思念せんと欲す。

日報歌壇

本間 梁月選

□嫁がぬ悲しみ

辨當を小脇にもてば先づ今日もことなかるべし、はかなき命

二十四才にもなれど嫁がぬ悲しみはすべてのもの、美しく見ゆこ。

□春逝く　梁山 紫佃

若人の心はいともあわたゞし繚亂としてこぼるゝ花も。

なつかしと思ふ心の何處にか少し怨も交り春逝く。

□君が日送り　梁山 紫佃

心までやがては遠く離れ行かむかゝる思に君を見送る

あはれかの淋しき笑顏長へに我思ひ出の種となるらし

何處にて如何に再び逢ふべきや思ふ子さして今は別るゝ

かりそめの言葉なれども病める日の心はさてもしみ〴〵ときく

病める日の心は弱し悄むべき人さへそこと懐しまるゝ

我病みてありと告ぐべき人もなし心淋しく水藥を飲む

我れ戀ふる小女一人はあれよなど思ふも春の愁ひなるらし

日報俳壇

雉子郎選

囀

囀や相逢へば驢馬鳴き合ふ　蒲南

囀や風出てかげる倉廂　合歡女

囀や坂のしばしを車下る　よしみ

囀や墓地ある中洲時に人　雉子郎

囀や醫も隔日となり讀書　同

目刺

目刺燒いて草廬事なく今日暮れぬ　如泥子

獨居

目刺呉れる隣や雨に寐佗び居し　同

野燒

草を燒く子等の行末いかになる　容堂

草燒くや河原に子等相撲ひをる　同

芝燒くや驚き動く山の色　同

燒くる山を眼前に砧打つ女　韮城

潮滿つる如くに廣野燒けにけり　同

公告

支配人解任　麻生鑛業合資會社支配人藤本元次郎ハ解任
支配人選任　[illegible] 黃海道安岳郡 [illegible] 麻生弘寬 [illegible]
[illegible]
右大正五年五月貳拾貳日登記
海州地方法院載寧支廳

購買入札

一朝鮮松丸太外拾四廉
右購買ス詳細ハ五月二十六日以後ノ朝鮮總督府官報ヲ見ヨ
朝鮮總督府

一塗料類九點
右詳細ハ昨日ノ朝鮮總督府官報ニ在リ
大正五年五月廿六日
朝鮮總督府遞信局

仁川本町 [illegible] 祐助商店
品目
絨緞布製品各種
厚司工服
メリヤス類
縮緬シャツ
手巾木綿
手拭タオル
洋傘信玄袋
京阪洋行

農具廉價販賣
一石拔唐箕（三口）十圓五十錢
一萬石（鐵網）四圓
一普通唐箕（二口）八圓五十錢
一水車（杉、松）十圓五十錢
農具、家具、建具、箱類
製造販賣並に大小修繕
御用命奉願候
京城旭町一丁目四十二番地
電話三三九番
京城木工社（梅崎工場）

新刊書御案内

書名	著者	定價
採鑛設計	内田鼎八郎	一、七〇
幾何は斯の如く解義せよ	高澄仙一	九〇
最新中等化學通論	倫引純二郎	一、八〇
肥料製造論	木田芳三郎	一、三〇
吾が農家の經營	谷本米州	一、二〇
近世支那十講	稻葉君山	一、五〇
英雄史談	上田萬年	一、二〇
哲學汎論	木下四郎一	一、一〇
教育界の表裏	碧水樓主人	八五
煬帝艶史	三木愛花	九五
校歌ロオマンス	出口競	六五
現代名歌選	橋田東聲	八五
汎獨逸主義	大原甲錯譯	一、〇〇
俳通	小波	一、五〇
人の垢	碧六	九五
黑髮集	吉井勇	八〇
地獄の花	永井荷風	七〇
ボティチェリ	木村莊八	一、〇〇
霧の王國へ	別所梅之助	一、〇〇
接吻外八篇	チエーホフ	九五
白露紅露	幸田露伴	五〇
合歡の花	田山花袋	九五
野球年鑑	朝日新聞社	三五

京城本町 電話二〇八六 振替京城二五七三番
大阪屋號書店

警官志望者養成講義錄
警官は内地臺灣朝鮮支那外國に就職成功確實 ◎本會は志望者に就職の幸福を得せしむ ◎受驗に合格せしむ ◎在郷軍人青年立身の福音 ◎見本進呈
東京芝公園 警察成協會

女學世界
六月號
砂の塔（敏なる感想と鋭き批評）　與謝野晶子
我儘でもしつかり者　岸邊福雄
△日本人の根本衞生　高木兼寛
△良人の放蕩と妻の忍耐　棚橋絢子
古塚の芳魂　物集梧水
△美人史譚 名古屋婦人の應對ぶり　天の釣舟
△古今賢哲一人一話　鵜尾宮二
氣苦勞をする女さる精神病　村上隆治
未亡人と不良少女（興味深き社會觀察）　婦人記者
思出の記 雲雀の高歌　錦 實珠
△趣味科學 砂糖と鹽の由來　田中茂樹
△發の話　駒澤由紀
身上話 薄命に泣く人々　しづ緒
質問職業 日記病院づとめ 誘惑の手に陷らんとして　宮下園香
美人史蹟 加茂の村雨　靜浦逸人
此の子の親（曲折極りなき長篇家庭小說）　トム老人案
定價一冊二十三錢 郵稅二錢 [illegible]
東京 博文館

黑柳勳先生編
實用ペン習字帖
今やペンを以て日本字を書する時代とはなれり、ペン習字帖は此要求に依て生る、楷書行書草書を始めあらゆる書體を筆者の流麗輕快なる運筆と明精巧なる印刷と相俟て何人も直に會得熟達せしむ。
定價金二十錢 送料四錢
京城本町 電話四八 振替二五七三 大阪屋號

少女畫報

畫報
□更衣（原色版少女寫眞）……河崎蘭香筆
□新綠（少女寫眞オフセツト版）……本田庄太郎筆
□繪手本（附見玉枝）□書方手本
□大君が代蘭 □昔と今と
□少女と山羊 □可愛小犬
□海の博覽會臨場の朝香宮殿下
□第一第二高等女學校遠足 四女學校遠足
□濱離宮拜觀
□お料理と運動 □シヤムの婦人
□少女大會の賑ひ □西洋の名畫
小說寫眞 迷子札（波瀾重疊）

讀物
□私の寫生帳……文子 □女丈夫……鈴蘭
□花の寶……古江 □茄子料理……乙子
□數學上達法……寫眞 □日記……晚翠
□小女らしく……三輪田數頭
□トンボ……石川博士
□大君が代蘭……伊藤博士
□英語のお稽古……岡田教授
□さみだれの頃……月枝 □安壽姫……雉子
□無名島の少女……節子 □お雪さん……紅風
□小猫物語……蘭子 □梅雨晴……かれ子
□産婆となるには □女學校評判記
□私の人形……田村俊子
□親心（新作少女小說）……和田古江
□水無月（日記）……伊澤みゆき
□愛讀者大會盛觀

□六月號 一冊十六錢 郵稅一錢 半年郵稅共九十六錢
東京京橋鍛冶橋 振替四千九百番 東京社

顧問 帝大教授 木下醫學博士 ●主幹 日本産婆學校講師 伊庭醫學士
會員募集 第三回新學期開始
受驗 産婆學講義錄（全部完成）
六ケ月卒業 内容見本 規則進呈
東京市外駒込動坂町 日本産婆學講習會

知らぬまにペン習字 [illegible] 現代の要求する能書家を速成す [illegible]

○ドーモン奪還の價値

佛軍の大成功＝防禦陣地益々鞏固

獨軍の一部がミューズ河の右岸より脱退したるに乘じ其の左岸に增援せられたる佛軍は直に攻勢に移り獨軍が八十六日間維持し且頑強なる武備を有するドーモン要塞の殆んど全部を奪還し佛軍はミューズ江に沿ひてブラス及ヴエルダンに至り得べきラブインに接近して其の防衛陣地を鞏固にせり同要塞が甞て獨軍の有に歸せる際の如きは獨軍の共努力は獨軍がヴエルダン地方に於て行ひたる戰鬪中最も熾烈なるものなりき獨帝は甞てヴエルダン防禦に大關係あるドーモン要塞を訪問せし事ありたり（巴里電報）

○南京會議無意義に終る

過般開催されたる南京會議は何等決定を見ず無意義に終りたるを以て倪嗣沖は之を憤りて立ち去れりと（北京電報）

○重慶遂に獨立宣言

重慶は遂に獨立を宣言したり（上海特電）

○濰縣も愈々開城す

濰縣は二十四日午後二時愈々開城せり（青島電報）

○廣東の革軍振ふ

香港來電に據れば廣東が獨立を宣言してより多數の兵士は北軍と戰はんとしつゝあり李烈鈞の指揮する六千の軍兵は廣東に到着せりと（上海特電）

○張將軍の嚴戒

張將軍は宗社革命兩黨活動の報に接し昨今非常に嚴戒し居れり（奉天特電）

○奉省貸付運動無効

米總領事の當て外れ＝日支條約違背と張將軍跳ね付く

米總領事は支那當局に三百萬圓を貸付け特別利權を得ん事を運動せるも奉省の借欵は先づ日本資本家と查照すべしとの日支條約に違背するを以て張將軍は之を承認せず米國領事は更に種々運動中也（奉天特電）

○經濟調査會

金融部特別委員會

經濟調査會にては二十五日午後一時三十分より首相官邸に於て金融部特別委員會を開き早川千吉郎、片岡直温、小山健三、水町袈裟六、井上準之助其他各特別委員出席し去る十九日の金融、貿易、產業振興部會に於て調査を附託されたる對支金融機關整備方法即ち（一）金融機關の新設若くは既設機關の利用得失（二）金融機關を新設するとせば單一の銀行を以てするか將た滿洲地方に存する所謂滿洲銀行中支那及び南支那地方に對する所謂日支銀行の各別設立を利とするか（三）日支銀行設立に關する重要問題、日支合辦組織の可否、金資本にす可か銀資本にすべきか、資本金額一覽手形實行の可否、割增金付債權發行の可否（四）滿洲銀行設立に關する主要問題、一覽拂手形發行の可否、割增金付債權發行の可否、業務の緊榮等を議題として調査研究する所あり各委員と森銀行課長等の間に質問應答ありて意見交換後散會せり（東京特電）

○日銀又復利下か

日本銀行に於ては近回又復二厘利下を斷行せんと（東京電報）

○工場法施行令案議了

工場法施行令續議中の樞府特別委員會は二十四日を以て終了したるが右同案修正案は一應閣議に附し而して決定を見るべしと（東京電報）

○船舶買手無し

海運界は輸送貨物減少を告げたる結果運賃低落し昨今船舶の賣物盛んに出づるも更に買手なく漸次不振に傾きつゝあり（東京電報）

○札幌大學獨立

醫科理工科の獨立

札幌大學は現在東北大學の一分科として經營されつゝあるが之に對し過般來北海道選出代議士有志等より現任の農科大學に更に醫科理工科を附立して獨立せしめ是に要する豫算約百萬圓を寄附し猶獨立後滿四年間の經常費をも全部寄附すべしとの條件を附し種々交渉ありたり之に對し文部省としては大體に於て贊成の意を表し居るも同大學の沿革を調査し猶各方面共支障無く且將來北海大學として維持發達の見込立つに於ては或は認可を與ふべしと（東京特電）

○漢口水電借欵

漢口水電會社借欵は東亞興業[illegible]

輸出超過百廿七萬圓に達せり（東京電報）

○北海大學と與黨

[illegible]

○張將軍の野望

奉天　東三省官蠻充一

芝罘等が鎭安上將軍として三省の軍權を統一したるに比すべくもあらず獨立したる後勿論奉天省內に東邊、洮昌二鎭守使も張將軍出身地位の猶の場合に處して機宜を誤るの虞あれ現時局に於て三省の軍權分立は萬一しめ居れり（奉天）

[illegible]

なからず從來は何れも江原道地方より居る今期漁獲を認可され居るもの少春秋二期にして一期一組の漁獲高七八百槽に達する由（清津）

○商工業より視たる臺灣

＝朝鮮米が喜ばる＝　青木商工課長談

臺灣視察を終へ歸任中の青木商工課長を車中に迎ふ、何しろ素通り同樣の旅行なれば話す程の材料もなしと斷りつゝも語つて曰く

▲半農半工的　臺灣はもと支那の領土であつた時に支那政府の政策として臺灣では原料を生產し之を支那本土に移して加工すると云ふ方針であつたゝめ製造工業は發達して居ない唯砂糖、茶、麻布などの半農半工的な生產物が重きを爲して居る臺灣と云へば砂糖を聯想する程に砂糖は臺灣の重要生產品である、茶は例の烏龍茶と稱し盛んに米國邊に輸出されて居る、麻布は米俵用として盛んに製造されて居るやうだ

▲商取引の關係　臺灣の商業は大體に於て朝鮮と相違なし、臺灣には所謂本島人と稱する支那人が居つて彼等獨特の商業を營んで居る日本人も土人も或は多少の外國人も同じく商業に從事する者が多いが本島人の商賣の巧妙なことは到底何者も及ばぬ程である、商人相互間の取引關係も二三の特例を除くの外は本島人と日本人或は土著人等との間に密接な取引を結んで居ない何れも各國人別の其々圈內に於て賣買行爲が行はれて居る、朝鮮でも同一であるが本島人等の生活程度と云ふものは極めて低いものであるから商品の販賣に付ても頗る薄利であるから勢ひ日本人等は之と競爭は出來ぬことゝなり從て本島人が商戰の勇者たる地位を占めて居る、併し取引される商品は所謂大阪物過半を占め之に多少の支那商品が混じて居る位である

▲朝鮮產の移入品　朝鮮と臺灣との商業貿易關係に就て云へば米が一番有望と思はれる現に昨年來三井物產の手より釜山、仁川等を經て朝鮮米が續々移入されて居る、臺灣米は彼の西貢米の如き劣等な品質であるから在留の日本人は從來何れも九州米の供給を仰いで居つた、然るに昨年朝鮮米が移入され非常な好評を博し爾來米は朝鮮米に限ると迄云はれて來た、朝鮮の水產物も却々多く移入されて居る基隆の某水產商の話しによると年額十四五萬圓も一手に取扱つて居ると云ふことであるから總體では非常なものであらうと思ふ現に自分の實見した所に依るも二三の食料品店に朝鮮產の玉珧貝を販賣して居つたやうである此向ならば將來續々玉珧貝、鰕等の鹽製品が移入されるであらうと思ふ、此外朝鮮の產物が日本內地に移入し內地品として更に臺灣に移入されて居る者も却々多いと思ふ、要するに朝鮮は臺灣の供給者たる地位にあると思ふ臺灣の麻布を朝鮮に移入してはとの話もあれど今の所其望はない

○文武定期叙勳

二十五日文武官華族三百二十一名に對し定期叙勳の御沙汰あり其の主なる者左の如し（東京特電）

朝鮮總督府京畿道長官正四位勳三等　松永武吉
海軍中將從四位勳三等功四級　賀茂巖雄
陸軍少將從四位勳三等功四級　吉田平太郎
陸軍主計監正五位勳三等功四級　梶塚鍋太郎
造幣局技師正四位勳三等　甲賀宜政

叙勳二等授瑞寶章（各通）
朝鮮總督府判事從四位勳四等　膳鉦次郎
同檢事從四位勳四等　中村竹藏
陸軍步兵中佐正六位勳四等功五級　山本鶴一
同　石丸忠質

叙勳三等授瑞寶章（各通）

○五博士叙勳

天皇陛下には二十五日午前十時三十分宮中鳳凰の間に出御勳章親授式を行はせられたり當日受勳者の首席田中舘博士は式部官の誘導に依り御前に進み恭しく勳一等瑞寶章を拜受し退下便殿に於て勳章佩用及び御前に進み御禮を奏上し他の受勳者も前同樣の次第に依り親授の光榮に浴し退下せり當日名譽の勳一等を授けられたる者左の如し（東京特電）

正四位勳二等理學博士　田中舘愛橘
從三位勳二等醫學博士　弘田長
從三位勳二等醫學博士　青山胤通
從三位勳二等醫學博士　河本重次郎
從三位勳二等理學博士　櫻井錠二

叙勳一等授瑞寶章（各通）

○桑博職員行賞

桑港博覽會關係職員に對し二十五日其々行賞の御沙汰ありたり中主なる者左の如し（東京特電）

農商務大臣正四位勳三等　河野廣中
大正四年臨時博覽會に就き盡力少なからず仍つて旭日重光章を授け給ふ
同上　從四位三等　山脇春樹
旭日中綬章を授け給ふ
海軍大將　瓜生外吉
農商務次官　上山滿之進
宮中顧問官　平山成信
同上金盃一組を賜ふ（各通）

○一覽拂手形と滿洲金融市場

朝鮮銀行が滿洲に於て近く發行する小額の紙幣とも云ふべき一覽拂ひ手形に就ては屢報せしが其の效力に就き鮮銀某當局は左の如く語れり

▲金本位貨の擴張　日本政府の滿洲に於ける貨幣政策は金本位貨の流通擴大を圖ると云ふにあるは既定の事實なるがさりとて銀建の外國に俄に其の方策の成功する筈なし茲に於て少なくとも吾が政權の及ぶ滿鐵沿線の取引は金本位とすべく既に關東都督府の如き滿鐵の如き公課諸徵收等に之れを實行しつゝあり尤も滿鐵は支那銀貨をも受入るれど右は支那相場に依らず滿鐵は滿鐵として獨自に換算率を決定し居れり故に鮮銀の銀行券正金の金券は共に盛んに支那人の間に流通せられ又國庫鮮銀の補助貨も相當支那人の間に用ひられつゝあれど如何せん其の額面及び用途を別にし一律にし難き日本の補助銀貨と支那の本位銀貨は形に於て大なる差なき爲め常に混淆を免れず日支人共に其の不便を感ずる事少なからざりき此點に於て支那人は殊に苦痛を感じゐたるものゝ如し鮮銀の新一覽拂手形が如何なる程度迄支那人の間に流通せらるゝかは其發行後ならでは知り難きも其の取引の關渉に行はるゝに至らば少なくも前記の不便を除去すべく或は滿洲に於ける補助銀貨の需要は多少減少するならんかとも思はる

▲補助貨不足の調節　滿洲に於て現に補助銀貨不足の聲あり理より云へば國庫は正金銀行の需めに應じ滿洲所要の銀貨を遲滯なく發送し居る筈に付之れを大觀して其の不足を見る理由なけれど滿洲は朝鮮が鮮銀支店出張所並に百餘の金融組合に於て補助貨流通の過不足に關する調節に任ずる如き機關なく唯僅に滿鐵沿線の主要地に正金銀行の支店出張所あるのみ然も其の機關は大連遼陽開原の如き一二も之れを見ざる有樣に付金融商業工事等の關係上一地方に補助貨の潤澤過ぎる事あると同時に一地方に不足を訴ふる弊の起るは蓋し止むを得ざる所ならん此點亦鮮銀一覽拂手形の流通により少なからず調節され其の效果の多かるべきは今日より豫測するに難からず要之滿鐵沿線のみにても邦貨の勢力を一層大にし漸次金建貨幣の統一を圖る一階梯となるべし

○保險業者大會

朝鮮保險業者大會は二十五日午後六時より京城ホテルに開催せられ出席者は明治、帝國、日本、有隣、共保、東洋、大同、第一、横濱、日清、太平、東海、蓬萊、八千代、大正、日華、日本傷害等各會社支店出張所長主任其他五十餘名、當日は滯京中の我邦生命保險界の耆宿たる明治生命社長阿部泰藏氏出席し食事後別室にて阿部氏の日本內地保險界及び朝鮮に於ける保險業の將來につき有益なる談話ありて和氣藹々裡に十時過散會せり因に同會次期の幹事は蓬萊生命の滿田茂太大正生命の小貫要兩氏に決定したり

○鑛業熱益旺盛

出願件數八百件

本年四月中の鑛業出願件數は實に七百七十四件を算し之れを大正三年中の出願總計數五百四十二件に比すれば三百三十二件の增加を示せるのみならず四年中の出願總件數八百四十二件に比するも殆んど伯仲の間に在り、同月は新鑛業令の實施に依り重石鑛の出願多數なりし爲めにして斯の如きは總督府開始以來未曾有の現象なるが此趨勢は五月に入りても依然持續せられ今日までに於て既に二百八十餘件に上れるを見れば其件數四月に及ばざるは勿論なるも月末までには三百件を下らざるべく以て鮮內の鑛業熱が昨今如何に旺盛なるかを窺知し得可し

○立花師團長

歸任期の變更　消息

立花第十九師團長は廿五日會寧に著せる旨其筋に通報ありたる由なるが同師團長は廿五日會寧發豆滿江々岸を視察して雄基に出で同港より乘船元山を經て來月十日頃歸任の事に豫定を變更せりと

○人參耕作者授與式

度支部專賣課開城出張所にては六月一日午後一時より同所に於て人參特別耕作區域內に於ける定植參圃耕作者並に雇傭人の授賞式を擧行する筈にて總督府よりは荒井度支部長官、半井專賣課長等出席す可し因に本年の授賞者は耕作者一等三名、二等三名、三等二名、四等八名にして雇傭人は一等一名、二等一名、三等三名なり

車窓漫話

▲山縣政務總監が二十四日夜內地から歸任といふので兒玉局長久芳課長等西井里驛迄出迎へた時宛も政務總監は夕餐の爲め食堂に在つたので一同之に參加する事と爲つた▲局長始め餘程腹が北山の處に此日食堂車は來客多數の爲めとてコールド、ビーフの外何んにもお生憎樣といふ始末、一同御挨拶もそこ〱にして日本酒數杯を傾けたが空腹に忽ち醉ひ加減で退陣した向もあつた▲政務總監は馬關著後數時間の暇があつたので枝光の製鐵所を參觀した、先年鎔鑛爐を据著けた時分に視てから久し振りなので仲々面白かつたと云ふ、工場內は概ね汽車で巡覽した相だ▲總監曰く自分を或者は大層に肥つたと言ひ或者は又大分に瘦せたと言ふが何れが眞當か一向にわからぬ、中には非常に若くなつたと言ふ者もあるが之は全く確かにさうだと▲肥滿と言へば同乘の青木商工課長鳥渡政務總監にまぎらはしいので臨時代理は勤まりさうだとの說が出る、否や十年後でよいから保證して貰ひたいものだと同課長は大に反り返へる▲兎に角青木の肥滿するのも無理はない彼れの大食には僕も呉箇驚いたと總監はひやかした

人事消息

▲小栗憲兵大尉　二十五日夜入京山本旅館へ
▲黑田憲兵大尉　同上

■南言北語■

濟南の革軍がマンマと失敗したのにはきわどい趣がある▲其れは周村で革命黨が分捕つた馬蹄銀三萬元を以て濟南の第十七旅團幹部を買收する事になつて幹部の方でも贊成したから早速送つてやると其の馬蹄銀が全部僞物だつた▲慾に目のない旅團幹部は怒つたの怒らないの己れ見よと備けそこなつて眞ッ赤になつた▲早速其の僞物持參で將軍府に出頭し革軍攻略の內通に及んだ▲其處で以て見ん事革軍は裏をかゝれて總退却と云ふ大失態▲若し三萬元が眞物であつたら今頃濟南には革命旗が飜つて居る筈だつた▲支那の軍人さんは斯う云ふ使ひ分けをやるんだからヤレ獨立宣言とか中立維持とかご頗る當にならぬ▲ソーレ見給へ南京會議でも政府方と見せて手を振つて居る馮國璋と張勳とが上海革命派の唐紹儀と革派とを天秤棒にかけてグイと腰を伸してポカリと折れた時乃公起たずんばと來る事は受合▲何と云つても馮國璋は矢ッ張り一段頭が拔け出て居る▲お終には南方革軍と馮君との大喧嘩でも始めねばなるまい▲愈々支那は厄介になつてこんがらかつて組織のもつれたのを川の中に投げ込んだ樣なものだ▲米國のデヴイスと云ふ博士の長壽秘訣に曰く病身な少年でも大人でも節慾と樂天の習慣をつけたら高齡に達せらるゝさうで云ふのは長壽者が殆んど一致する基礎的養生法のやうだ▲其れから富めるものゝ天國に入ることの困難な樣に肥滿せる者の長壽は少い▲而して高齡者には禿頭がないと云ふ▲禿頭に何の關係があるか何時も禿頭の他の御引合せに出さるゝものはないと云つて禿子は決して禿では御座らぬが大に同情はする

京日案內

普通（一回前金三十錢無割引　匿名一回每に金五錢增　一箇前金六十錢無割引）
番外（匿名一回每に金五錢增）

普通

▲外勤員募集　年齡廿五歲以上の希望者履歷書携帶來談　京城太平通商業銀行朝鮮債券部　497

▼金融▽普通　オルガン ピアノ バイオリン　立替　◉本町二ノ三　ウツボヤ　電二五二七　158

◉十番二連獵銃買受たし御持合の方は電話二六〇六番太平通二太陽ゴム商會へ御一報を乞ふ　495

◉貸家　煉瓦造二階家屋數棟低賃にて貸す　京城長谷川町五八番地ゴルシャルキ　491

竹木陶器大理石貴金屬化學應用無刀彫刻法儀授書回送れ直に郵送す　大田（大田座前）石原米壽　455

昆虫及植物特價販賣　採集用具　京城壽町四〇　電話二二七六　回天堂教育品部　421

▲キヤラメルは……京城藤商會の人參キヤラメルに限る……滋養に富む　413

◉藥劑師（姓名在社）前垂掛けの勤務先を望む特に製劑に經驗あり（年二十四歲）　486

◉貸家　新路紫察署横仁寺洞二五　日本建官吏會社員向家賃格安　使用の便あり　電話二四三六　井村　488

雜誌巡廻讀會　新古圖書雜誌　交換　買入　▲割引　京城本町一　松井松榮堂　電一三七八　492

▲金澤日韓兩國語同系論　▲博士　▼定價一圓　京城本町振替二貳　六版　美　ウツボヤ書店　158

◉古本なら野村　買入誠實御報參上　京城本町一丁目（明治町筋）電二六三六番　野村書店　142

◉明治町フランス教會正門前　▲ホ子ツギ▲うちみくじき治療　電話二五九五番　荒川仁壽堂　180

古本無比高價買入弊堂の勉強是非御試驗を乞ふ御報即刻參上　京城本町四　電話二七八一番　普古堂　199

番外

勸業債券高價買入　新六十四回當債券共月賦販賣致居候間御用命願上候　京城太平通二ノ三二六　商業銀行朝鮮債券部　電話二八三一　496

▼玄米乳　類似の名を附し世人を欺く不良品販賣者あり　玄米乳は◉東京化學研究所指定店　京城龍山に本舍一ヶ所とす　北米町製乳所　電話五四一　494

讓店　本町拔目の場所小賣商店にして絕對に有利なる事を請ふ都合により讓る（姓名在社）　493

京城春川間乘合自働車　片道四圓　京城發午前八時◉春川發午前九時　京春自働車商會　電話貳參八番　支配人　松田諒男　50

玄米糖化卒先者にて於東京醸酒大會一等賞受領　文會關東細菌學應用純粹糖化の玄米乳　僞物あり絕對無効力　京城新町　藤齋製乳所　七八七二　414

礦物定量分析　京城太平通二ノ二五　坂元分析所　電話一三四四番　416

蠅取器　アンマ器　定價二圓五十錢　大勉强一圓五錢　販賣致します　京城本町一丁目　高木旅行用具店　一圓六十錢　484

年金恩給融通　地方照會あれ迅速詳報　無保險　立替　短期　京城武橋町二三番地　電話三三八三番　京城日報社北方一丁　國江商會　144

東京中川式魔法マッチ　懷中電燈　電池の强力他製品と比較を乞ふ　小賣御　黃金町電二九十八　自座京城壹武壹九　川合時計店　186

盛花家元　明治町本通　春道齋

長持　▲他人の惡氣を豫防し　▲心身の疲勞を恢復し　▲精神爽快、元氣旺盛　ヒスイ色まが玉形　十錢入　袋入　箱入　本舖　代理店　東京　安藤井筒堂　京城　新井藥房

人に接する時必ず口中せられよ　衛生口錠　カオール

岡山縣人岡崎佑平に告ぐ　國元に急用あり至急歸宅を要す現住所京城南山町二丁目三宅富治へ報知せよ

タングステン　用手廻橋鑛機及大マグネット中根式鑛山機械は始政五週年記念物產共進會に於て賞牌一狀三を授與され鐵工界唯一の光榮を得たる者　京城南大門通五　電話一〇四番　中根商會

滿蒙處分論　定價金一圓　京城日報代理部

轉居　黃金町二丁目四十八番　辯護士法學士　赤尾虎吉　事務所　右記へ轉居致し候　電話一六三九　301　499

店員入用　年齡廿歲より卅歲位迄性質直にして商業に相當の經驗ある者二名採用す希望者は履歷書携帶本人來談　光化門西側　山內商店　電二六三〇

中古ミシン賣買　御用の方は御一報次第參上可仕候　京城鍾路二丁目　電話二三三八番　楠商店　303

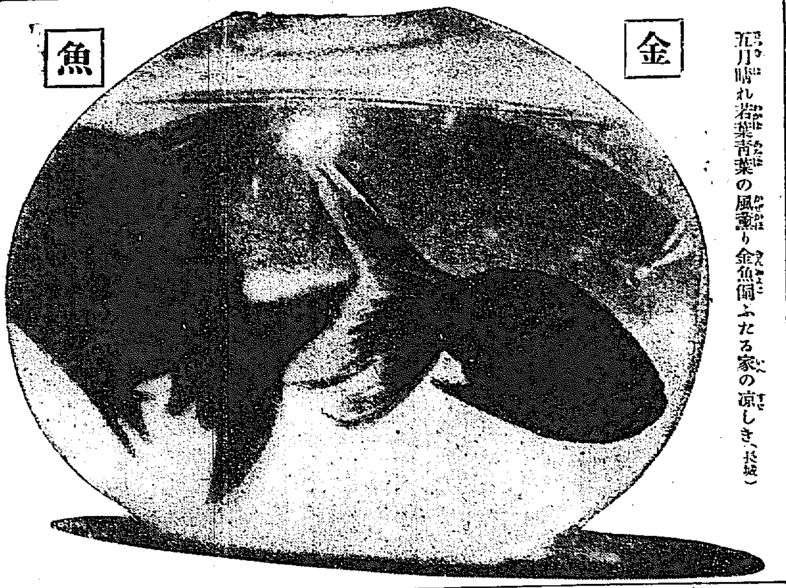
右請負工事入札ニ附ス
一　南大門、櫻井、元町、三公立小學校階段踊場上ニ小室增設工事
此入札保證金ハ各自見積價格百分ノ十以上
入札者ハ滿二箇年以上斯業ニ從事シ現ニ京城學校組合區域內ニ於テ國稅府稅又ハ當學校組合費年額三十圓以上ヲ納ムル者ニ限ル
請負希望者ハ當學校組合ニ就キ入札心得書契約書案仕樣書及現場等ヲ覽ノ上來ル二十六日午前十時限リ入札スヘシ開札ハ十一時
此契約ハ京城府尹金谷充之郎ヲ擔任ス
大正五年五月二十三日
京城學校組合

○對支貿易出超

對支貿易益々好調にして五月中旬中……一策に過ぎずと觀らる（東京電報）

……て政府與黨の勢力を扶殖せんとする……軍は素より唐、吳の二鎮守使ども所……ん……地位相同じく從前張錫鑾、段……家當す可き旨を吉黑二將軍に電命し……たれば吉黑が軍事上全く奉天省より……頓、配置に非常の細心鄭腕を要する……將軍は過日更に其幕僚を北京に派遣……し當局者に事情を陳して百方運動せ……

……して……國への歸化鮮人にして數里に……參として支那に仕向けられ採取期は……より何れも海……



五月晴れ若葉青葉の風薫り金魚飼ふたる家の涼しき（長城）

●生蕃物語

＝一般に赤い物を好む風あり　男子檳榔子の實を咬む奇習＝

種族に依て種々樣々な禮服と通常服

土地調査局調理課長　工藤壯平氏談

草昧野蠻の彼等の間に在つても衣食住は矢張り簡單のものながら重要問題である彼等の多くは平素は裸體であるが或る種族には勞働服通常服禮服とを持つて居る者もある併し多く平素は男は裸體で陰部の前に

□三角形の小布を

垂れて居る此の布は細紐で腰に卷付けて居る女は麻の手拭に似たものを腰部に卷付けて猶く著物は布を簡單に綴り合せたもので、簡短な袖無の形のものも見受ける又は四角な風呂敷の樣なのもある男女共に跣足である　タイヤル族は男は草蔓で拵へた丸い帽子を被り前にいつた袈裟の如う三尺許の布を頸から結付けて胸を蔽うて居る女は黑布を頭に纏ひ脚袢の如きものを脛に纏つて居る禮服になると彼等の中にも

□却々洒落たもの

が多いブヌン族などでは男は鷹の羽で飾つた禮帽を冠り女は鹿の角に彫刻した釵を挿し種々の光る金屬や貝殼を糸で繋いだ髪飾りや又夜光貝白銅貝輪などで拵へた耳飾を付けたり硝子玉や貝殼や陶製の玉や木の實を連らねた頸飾猪の牙人類の犬齒や眞鍮、籐、藁革等をつなぎ合せて拵へた腕環をも嵌めるツオー族では男は

□山羊や鹿の革皮

で拵へた衣服の上に同じ袴を穿き女は淺黃又は白木綿に刺繡を施したる襟付の衣服を左前に合せて著けるパイワン族は大抵勞働服は常衣の通り持つて居る男の勞働服は常衣の古いのを用ひて居るが大抵縞子又は淺黃木綿で拵へて居る禮服には袖口の裏に比較的巧みなる色糸の刺繡が爲てある胸の合せ目には金屬製又は貝製のボタンが付いて居る

□禮服を著る時には

襦袢の下著まで著ける此種族は中々贅澤で女の禮服は多く土人から求めた縞子で拵へ襟が著いて居る支那人の服の如うに左脇で合せてボタンで止める樣にして居る禮服を著ける時には花釦を叉したり銀頭の髪飾りを施したりハイカラの女になると足袋や手袋まで持つて居るタイヤルの方では禮服には夥多の小鈴を付け

□著物は檳榔子

の根で茶褐色に染めた麻糸で縞を拵らへて居る生蕃は赤色の物を好むのは一般の風である、それであるから赤糸を土人などから買ふやうだ衣服其他の裝飾品は土人との交易に依つて得るものも少くはないが普通の種族では彼等が自作の麻絲で手織したものである、布を織る事は前にも述べた樣に女の仕事であつて小な織機で織つて居る彼等は織布の爲めに絲を得ると非常に喜ぶ古い毛布などが手に入ると

□それを一々解いて

絲とし麻絲に交へて織るが却々風雅の面白い布を織り出して居る耳、脊、手首、脚、腰、指等に著ける飾環などは多く蕃地で拵へて居る又彼等は裝身の一方法として男女共に檳榔子の實を咬んで眞黑に齒を染める風習が有るが更に丁年に達した男女には黥をするが此の黥を施すには却々面白い慣習がある（つゞく）

東京大相撲

廿五日午後東京支局特電

琴ケ浦（逆鉾）千葉崎（玉の川）土州山（宮城山）岩木山（寒玉子）

小常陸　柏戸

釋迦嶽（預）稻の穗

宇都宮　眞砂石

大蛇潟（龍ケ崎）鳴戸洋（稻葉嶽）

玉手山　九州山

大錦　朝潮

紅葉川（朝緑）黑瀬川（近江富士）敷島（紫雲龍）

栃木山　太刀山

△中入後

千年川（大の川）大戸平（梅川）四海波（鶴渡）

兩國　大鳴門

源氏山　石山

浦の濱　預　對馬洋

西の海　伊勢の濱

▼太刀敗る　五年振りの黑星

太刀山は初日以來近頃に無き西軍の奮闘に氣をよくし味方一同を激勵すると共に出羽の海部屋の新鋭豪才の貽者を相手に天下無敵を發揮し居り三日目宇都宮との勝負中烈しく突合ひ左の無名指に負傷したるが自己の力を深く恃みて押して出場し無理な片手相撲などし居り五日目九州山との對戰に於いても危ふき相撲を取り太刀最負なしてハラ／＼せしめたるが果然八日目堅剛栃木山との立合ひに於いて別電手擱きの如く太刀の強引に寄らんとする出鼻を栃木に掬ひ投げを打たれ殘すを透かさず得意の右差しにて一氣に寄り切られたるは左手の負傷を押して角力へるに原因する所無きにも非ざるも近年に於ける太刀の下り坂なる事を暴露せるの感なき能はず太刀山は明治四十四年五月場所相生と預かり四十五年一月場所西の海との相撲に於いて立ち上がりさま突き進む出鼻をハタかれ突き手を爲して惜しき敗を取りし以來昨年夏場所まで連戰連勝全くの土附ずにて常勝將軍の名を擅にしたるが盛者必滅遂に侮り難き小冠者栃木山のために無慘にも敗れ了んぬ、是れ將に大將軍星燦として隕ち來るにも似て天地晦冥鐵傘を搖がすの觀ありしなるべしさるにても好角家の此の二三年間以て不可解とせる大問題を解決せる栃木の功は蓋し本場所隨一なるべし

▲八日目の勝負

勝		負	勝		負
浪泉	より	大の高	高千穗	より	荒石
藤ケ谷	より	四國洋	朝日山	預	八幡山
駒泉	しり	大湖	篠の川		黑鐵

右の內▼琴ケ浦に逆鉾は逆遮二無二突つ張り進むを琴殘して右を差し掬ひ投を打つて勝▼千葉ケ崎に玉の川は玉が下に入らんとするを千葉寄せ付け後から輕ろく押し切る▼土州山に宮城山は突き合ひ土州蹴返したれど利かず右四つとなり掬ひ投げを打たんとして宮突き手をなして土州の勝▼寒玉子に岩木山は突き合ひ岩木二本差して押進み外掛けに浴びせんとするを寒土俵を廻つて殘せしが遂に寄り切りて岩木の勝

▼柏戸に小常陸は激しく突き合ひ柏敵の差手を打しも突手をなし小常の勝▼稻の穗に釋迦嶽は右四つ釋迦が進んで出投を打つて體を預けるを稻打捨り預りとなる▼鳴戸洋に稻葉嶽は右四つ吊り出して鳴戸の勝

▼眞砂石に宇都宮は好取組なり激しく突き合ひ宇都大きくハタき眞砂の殘して廻はり込むを透さず二本差寄切つて宇都の勝は喝采

▼玉手山に九州山は九州左りを差して寄り立つる出鼻を玉手は右手を九州の首に捲いて首投げに行きしが九州危く殘して強引に捲き上げ其の儘持出さんとするを玉手足癖に防ぎつゝ體を突き付けしに九州勝をつきし爲め玉手の勝となる▼大蛇潟に龍ケ崎は右四つ大蛇寄ると見せ出投を打ち殘すを透さず／＼叩き込みて大蛇の勝

▼朝潮に大錦は當日第一の好取組滿場動搖めき最負の聲援は頻りなり互ひに念入に仕切り錦突いて立つや朝右手に錦の左手を引き掛け小手投げを打たんとするを錦拂ひ／＼双筈にて押し進み行司溜りの上に押し詰め朝の殘さんと

▼太刀山に栃木山は之れ亦好取組み無論太刀の勝と思ひきや栃木飛込んで左を差し太刀が右手に捲き込んで強引に寄らんとする出ハナを栃木大きく掬ひ投げを打ち太刀の殘すを透かさず右を差すや東溜りと行司溜りへ一氣に寄切り美事に栃木の勝は滿場總立ちとなりて霎時鳴りも止まざりき

△中入後

▼紅葉川に朝緑は無雜作に突張り出して紅葉の勝▼千年川に大の川は大の押進んで引落しを試みし時千年危かりしが殘し四つ解けて千年の勝▼黑瀬川に近江富士は近江の二本差しを黑瀬門に極めて捻り倒して黑瀬の勝▼大戸平に梅川は梅の突張るを大捌いて左を差し梅が小手投げを打つを大戸殘して寄り進み掬ひ投を打つて勝▼敷島に紫雲龍は敷の突張るを紫雲逃身に土俵を廻り込まんとして腰碎けて打ち倒る▼鶴渡に四海波は右差寄切つて四海の勝

▼兩國に大鳴門は鳴門突張りしが兩殘して右四つ鳴の居透かしを引かんとする所を渡し込んで兩の勝

▼源氏山に石山は石突張りて左を差し足癖に捲れ込まんとするを打乘つて源の勝

▼浦の濱に對馬洋は左四つ對馬強引の上手投に行を浦腰を突きかけて同體に落ちて預かり

▼西の海に伊勢の濱は左四つ西右上手を引きつけて寄切り西の勝にて打出したり

▲九日目取組

（龍ケ崎 千葉崎）（梅川 敷島）（朝緑 千年川）（宮城山 藤の川）

（大の川 黑瀬川）（近江富士 寒玉子）（逆鉾 鶴渡）（四海波 鳴戸洋）

栃木山　九州山

浦の濱　伊勢濱

大錦　西の海

大鳴門　大蛇潟

▲中入後

（稻葉嶽 土州山）（玉の川 眞砂石）（岩木山 柏戸）（紫雲龍 稻の穗）

宇都宮　小常陸

大戸平　玉手山

釋迦ケ嶽　兩國

石山　朝潮

（對馬洋 太刀山）

右の內石山に釋迦ケ嶽及び伊勢の濱に九州山の二番は何れも本紙既報の通り好取組にして春場所釋迦ケ嶽は石山に突き放して敗れ居り又九州山は伊勢とは初顔合なり

●財の兒を捕ふ

仁川警察署管內富川郡西串面商作里附近には之れ迄財出沒し被害尠からず本月二十二日同面公村里金點用（二九）外二名が桂陽山中を涉獵中三頭の大財に遭遇せしも銃器を携帶せざりしより取逃したるも遂に生後三四箇月を經たる位の兒財一頭を捕獲し佳亭里駐在所より仁川署に送り來り目下同署にて飼育し居るが捕獲者には其の筋より規定の賞與あるべしと

◎本夫殺は無期懲役　忠南天安郡歡城面弘堂里鄭姓女（二八）が本夫なる安成佛を絞殺したる事件は二十五日京城覆審法院に於て控訴棄却となり前判決同樣無期懲役の處分となりたり

◎鍾路署の試合　京城鍾路警察署にては二十五日午前十時頃より入京中なる京畿道管內各隊署長參集し劍客二十名の基本、型、試合等あり

◎同宿の枕探し　京城南大門通り二丁目撮敬文方居朴順純（三五）は前科二犯あり五月十一日午後四時頃並木町徐庄金方止宿中同宿人なる李喜成の銀側懷中時計一個以上合計（十七圓）を在中の蟇口一個並に現金を枕探したる爲本町署刑事に取押らる

◎空屋の硝子泥　黄海道錦川郡慎仁面白馬里廬元京（三一）は二十一日午後五時頃京城明治町一丁目青木某所有の空屋に忍び込み洋刀を以て障子の棧を切取り硝子五枚を拔き更に一枚拔かんとする所を家人に取押へられ本町署に突き出さる

◎工業專門展覽會　工業專門學校の春季展覽會は廿八日同校々內に於て開催廿五日それ／＼招待狀を發したるが一般希望者には觀覽券を贈呈すべしと

▲玄米乳の好評　東化學研究所は同所研究を以て明治末の乳業傷口より製造する玄米乳の普及を目的とし昨年來市內北米倉町に指定店を特設し玄米乳舍と稱し林誠二氏をして經營の衝に當らしめ專門技師を特派して專ら玄米乳を精製して一般の需用に應じつゝあるが同品は母乳代用として發育惡き小兒又は母親の滋養料として成績良好なれば各病院產婆間に賞用せられ需用益も頗る增加するに至れり因に玄米乳舍は京城明治町一個所を指定し龍山も直配達を爲しつゝあり

御大典活動寫眞巡寫

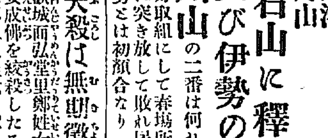
南鮮地方を巡回謹寫しました處其後全鮮各地の愛讀者諸君より頻に謹寫の希望が參りますから今回更に西鮮各要地の京城日報、毎日申報各支局各販賣所の主催で謹寫する事と致しました其の開催地と日程は左の通りです

地名	會場	日程
開城	開城座	廿八日午後二時軍人學生—廿九日午後二時一般公衆　同日午後八時一般公衆—同日午後八時一般公衆
平壤	歌舞伎座	卅一日午後八時一般公衆　同日午後二時軍人學生—二日午後二時軍人學生　一日午後八時一般公衆—二日午後八時一般公衆
新義州	歌舞伎座	四日午後二時官衙團體—五日午後二時軍人學生　四日午後八時一般公衆—五日午後八時一般公衆
鎭南浦	花山座	七日午後二時軍人團體—八日午後二時學生團體　七日午後八時一般公衆—八日午後八時一般公衆

入場料　一等四十錢、二等三十錢、三等二十錢

現愛讀者及び新購讀者には非常な特典があります

西鮮地方愛讀者諸君



腕の人

＝工傳の染織科＝

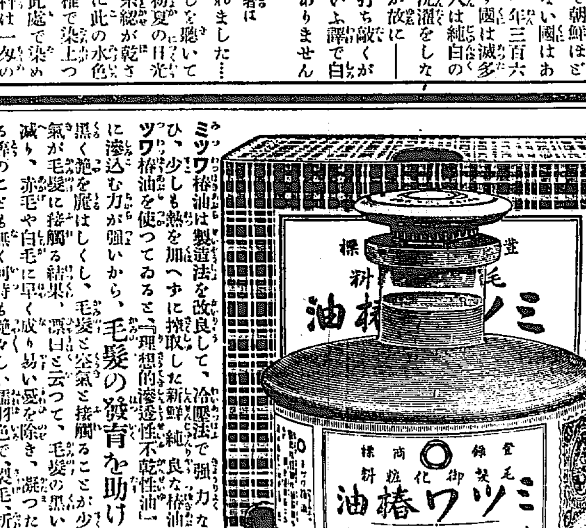
＝一千餘種の染料品の取扱ひ方＝

凡そ世界の中で朝鮮ほど染物の進歩しない國はありますまい、一年三百六十五日白の著物で押し通す國は滅多に他で見られません、鮮人は純白の著物を著るが爲めに毎日洗濯をしなければならぬ、洗濯するが故に曹達で煮た上棒をもつて打ち敲くが爲めに地質が早く損むといふ譯で白無地はあまり經濟向ではありません

曾て山縣政務總監は朝鮮の白さ一緒に清くしたい者は鮮人の著物であると申されました……と上田主任の態度はなしを聽いて居る傍には汗ばむやうな初夏の日光に薄水色のシルケットの糸總が乾されてあつた、鮮人は非常に此の水色を好むが染方は餘りに幼稚で染上つたものに不同がある、今此處で染めた糸は二貫匁に對して染料は一匁の半分しか用ゐない……といふはなしもあつた、教室兼實習場となつた間き十間の四方の棚には數々の染料入り瓶がならべられてまた試染鍋や石油焜爐や試染鍋なども並んで居た大きな蒸汽機罐のやうな釜を何かと見れば是は糊付けにして型を染める烝釜であつた、歐洲戰亂以來染料の暴騰は誰れしも知る通りであるが從來朝鮮に輸入したものは多く上海から這入つて居たといふはなし、朝鮮在來の植物性染料にはむかしから日本の古代紫を染めあげる爲めに古くから移出された紫根といふのがあつてそれをアルコールで溶ると眼覺むる許りの眞紅となる、また近來單寧酸が騰貴したから鹽基性染料の媒染用として朝鮮に多き五陪子が多く用ゐられる、また槐の花からは今津技師の發明した黃色染料がとれる何分現今の染料藥品は其の數が一千何百種に餘りそれにまた木綿、絹、毛織物、麻と地質によつて變化があるので生徒はなかなか化學的の頭が必要である室には美しいモスの風呂敷や鮮人用のハンカチ、麻布なども積まれてあつたが猶ほ鮮人が婚禮の時に用ゐるキヤラコの風呂敷は紅青の型で染められてあつた、斯くすれば鮮人がむかし筆で書いた模樣よりも便利で廉くつくから昨今非常に賣れ行きがあるといふ（つゞく）

○ミツワ椿油

椿の實を特に內地に取寄せて、皮膜を去り、冷壓法を以て搾取したる、新鮮純良にして、毛髮の衞生に適し、色艶を麗しくする……



ミツワ椿油は製造法を改良して、冷壓法で強力なる水壓機を用ひ、少しも熱を加へずに搾取した新鮮純良な椿油で、平素此ミツワ椿油を使つてゐると『理想的滲透性不乾性油』と云つて毛髮に滲込む力が強いから、毛髮の發育を助け且つ艶且つ色黑く艶を麗はしくし、毛髮と空氣と接觸ることが少く、從つて空氣が毛髮に接觸る結果、漂白と云つて、毛髮の黑い色素が段々に減り、赤毛や白毛に早く成り易い憂を除き、凝つたり臭氣を發する等のことも無く何時も艶々しい濡羽色で、裂毛、折毛などの憂は決してないのである。

定價　小壜入 金二十錢　中壜入 五勺入 金三十錢　大壜入 一合入 金五十五錢　罐入 五合入 金二圓五十錢

○三百番香水

贅澤で、經濟で、而して最も優良な

種類

ヴァイオレット……（すみれ）
ローズ……（ばら）
リリー……（ゆり）
ムゲット……（花の名）
ミモサ……（花の名）
ブーケー……（花たば）

○三百番香水定價（上記六種の內なれば何れの香ひにても均一）

小壜入……金五拾錢
中壜入……金壹圓五拾錢
大壜入……金貳圓五拾錢

（三百番香水現品縮寫圖）

○三百番香水は優雅な香で、長い時間際を保つ六種の香を發賣いたしました。更に追々色々な種類を發賣致します。

○三百番香水は一壜毎に小壜の見本を添へてありますから、お嗜好に合ふものをお召しになられる便利な香水であります。

ミツワ石鹸　ミツワ家庭藥　ミツワ椿油　肝油ドロップス　御園化粧品　發賣元

○丸見屋商店

東京市日本橋區橘町四丁目　卸小賣 洋品、石鹸、香粧品、小間物問屋

電話特長浪花四四八・四四九・四五〇番　電信略號〇・ミ・ヤ・振替東京七一〇番

千生瓢 (222)

須藤南翠作　筒井年峰畫

瑞龍寺(一)

三河へ亂入して後を斷つ奇兵が、首尾よく効を奏すると、しないとでは、全體の戰局に偉大な關係があるので、樂田の本陣に詰め合せた諸將の間にも、先手の注進を氣遣ひながら評議頻りに區々に渉つて、中々議論が鬧しかつた。

其處から幾らも間隔のない帷幕の裡からは丁々として盤をうつ石の音が洩れて、折々崩れるやうな笑ひ聲が漏れて來る。是れは大將軍たる羽柴筑前守秀吉の、會心の事のあつた時に限つて聞くことのある、哄笑の聲であるので、此方の諸將は孰れも耳を欹て、「殿御機嫌斜ならぬ氣、さては先手武運に協うた瑞祥ともおざらうかの」と、互ひに面を見合せて、賞ひ笑ひをするのであつた。

筑前守秀吉は、身今戰陣に在るをも知らぬやうに、悠然と盤に對して石の死活に氣を奪はれ、「やあ、待てッ」と大聲を發した。

「また待たうと仰せられる。名譽の武將ともおざるまい。今度はいつかなお待ち申しませぬ」

本因坊は鋭く首を掉りながら、直に一子を下さうとした。其石一つで秀吉の多くの石は、悉く敵の手に奪はれる運命の瀬戸であつた。秀吉は突と手を出して、

「成らぬわ〳〵、只た一手、待つてくれ。秀が頼むわ」と、其石を引き揚げてしまつた。

「御卑怯おざりませう、盤の上なればこそ、待たも惣きまするが、誠戰場の進退なら、なか〳〵術はなりますまい」

本因坊は笑ひながら、石を筒に落して、秀吉が石を下すやうを見てゐると、秀吉は苦笑しながら、

「戰場ならば、是れまで死地に陷つても、活路を索める術は幾らもあるおや。おやが爰へ一目打たうといふ石の逍り場に當惑致いた」と、悲しい眼に全局面を見渡した。

何を見出したのか、本因坊の方が却つて色を動かした。同時に秀吉がぱちりと下した石は、實に盤石の重みがあつた。

「上手の手から水が漏るとは、此事でおざりまする。本因坊は勝を焦燥つて、到頭自滅致しまいた」

今まで息を殺して傍觀してゐた千利休が、太息を吐いて斯う言つた。

「や、恐れ入りまいた。不俊頓と其一目に氣が付きませぬでおざりました。投げまする〳〵」

本因坊が石を投ずると、秀吉は五體を揺つて笑ひながら、

「横著者めが、見事秀に倫を箝めさせ居つたな」と、心中の悦びを包み雖ねて見ゐた。

其處へぬつと入つて來たのは、稻葉伊豫入道一鐵であつた。

「やあ、御碁散おざるか。御邪魔致いては無心おざるの」と、一鐵は盤面を見て引き還さうとする。

「いや苦しうない。まヽ茶一つ聞食せ」と、秀吉はうち釋けて老人を引留めた。

本因坊は盤面を取片付けて、一揖して座を退り、利休は茶を點するために毫子の間へ去つた。

「入道、勝入齋から注進のおざつたか」

秀吉は一鐵の氣色を見て、進んで問を發した。一鐵は法師首を輕く動して

「若崎城を一時が程に陷いて、丹羽氏重、加藤忠景を始め、城兵悉く討ち取つたとおざる」

「若崎は掌ほどの小城ぢや、落すとも事ぢやがのう。勝入齋はまだ勢ひに乘る癖が熄ぬ氣、困つたものぢやよ」

秀吉は今でも不安は去らなかつた、一鐵も同じやうに眉を顰めて、

「仰する通りぢや。家康は一時後れて、子の刻に馬を出した氣、彼の入道そこに心著いたであらうか、一鐵は甚だ心許なうおざる」と、是れも池田を危むのであつた。

秀吉が何事をか思ひ出して、其を語らうとする時、平野權平長泰出頭して、

「木下勘右衛門殿よりの注進唯今著到致いておざりまする」と謹んで言上した。

「年少の秀次、不覺の戰を致いたと申すか、注進は何とあるぞ」

秀吉は粗ぼ意に悟る所があるやうに、沈著いた問ひ方であつた。

「左ん候ふ、稻葉山白山林に御陣を取られ、朝の兵粮を行はるゝ處に、思ひ設けぬ敵に近々と押寄せられ、御備へは亂れたとおざりまする」

長泰は備戰況を言上したが、秀吉は唯首肯ばかりで、善惡ともに口に上さなかつた。

釣道具新荷著
京城永樂町三丁目
釣道具 投網 其他漁網具一式 製造卸商
吉備商會
監獄署製品販賣所

西洋料理アイスクリーム、ハイカラ丼
おいしい東京風第一との高評を博し居り候
南大門通 電話二五七一番 カフエータイガー

入院隨時
旭町二丁目十三番地
若槻内小兒科醫院 電話二四六二番
ドクトルメヂチネ 若槻寛隆

小說豫告

千生瓢も近く大團圓を告ぐるを以て次回小說は東都文壇の宿將渡邊默禪氏が近時の大作「女鳩」を掲載すべし挿畫の鮮麗と内容の面白きは特に本紙の說明に反かざるなり

新刊紹介

■初夏五句　黄丘

稻害の黒掠れ葉甲夏に入る
初夏の朝利鎌芝草に躍る
亂れたる南國初夏の叫ひ
初夏の街アカシヤの彩り散
船群島の初夏を走る朝かな

▲實際養蜂　凡そ養蜂に關する必要なる事項は網羅して悉く此書の中に在り實用的蜂の生理蜂種蜂群花と蜂の關係疾病等蜂器具管理より[illegible]蜂蜜荷造り本邦外國の養蜂收支計算始め[illegible]の實物寫眞數十を挿入したれば養蜂家には此上もなき好伴侶たるべし(一圓三十錢東京市日本橋區本町三博文館)

▲俳通　厳谷小波氏の實なり緒論[illegible]於て俳諧の各義を述べ次で俳句練習に百數十頁を發し季題と例句に於ては天文地理時候動植物人事に分ち四季の上下旬に於て旬例を擧げ穩用間題亦人事百般の句例に說明を加へたり俳句の指導書と俳諧書記さる蘊れたるの感あり[illegible]

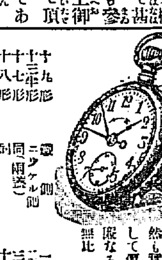
▲佛教史論　宗教特有の架空的傳說を[illegible]只非實を記述するに止まる冷かなる學究的態度を避け正確なる事實の上に立ちて佛教史の研究を爲すと同時に其の精神を宣揚せんとし努めたるは其だ意を得たり巻中收むる處十五篇皆一度公にしたるものにして論文あり雜錄あり講演めきたるものあり總て之の說師實洋氏が理會記めきたるものあり[illegible]せる佛教信仰の活躍なり(一圓五十錢東京市小石川區[illegible]文館)

▲小學校に於ける各科教授の實際
●●師範學校附屬小學校に於ける教授の實際を基礎として修身讀方綴り方算術地理理科六科目の教授法を研究せるもの教壇を執るの士が教授的教授法の研究に注意すべき問題にして本邦國民教育上顧みざるべからざる問題にして研究討議せんとするは實に小學各科目の教材に就て研究の足らぬを救はんとし此の上の要望に應ずべく廉價ならしめんとせり(八十錢東京市本郷區四丁目文武堂)

讀者の歌分

▲戰政府の或る農園の持主でありますが細張り外の樹木が太陽の光線を邪魔し色々と果樹を防害するのではだ困ります勝手に切り取る譯にも參らず失禮ですが右事情御察しの上御持の方一度實際根本を調べて切て頂き度い敢て德義上に訴へる次第であります(大和町森脇生)

▲余は朝鮮に於て次の如き山を發見す是れ何物か又利用の方法あるや十數町に亙る全山凡て黒い石にして十尺も地下に至れば凡て石は層をなし金挺子にて起せば容易に起き其層の間に木の葉及び花等現れ其れが空氣にあへば消滅す其質頗る軟空氣にあへば硬質となる砥砥石等に適當なり亦其石山中に古き井戸二あり其も何物か(採鑛生)


新荷著アンクル式片側懐中時計
無比　精確堅牢於て鞏固なる上比類なき値段の廉なる事天下

十九形 ニッケル側
十三半形 同(雨蓋)
十七形 銅側
十八形 銀側
十九形 金鍍金側(南蓋)
十六形 ニッケル腕時計
十二形 同
十二半形 同 ラヂューム付
十二形 銀
十二形 金 パリ(十年保險)
十九形 同
十八形 同
十八形 十八金
十六形 同
十九形 同

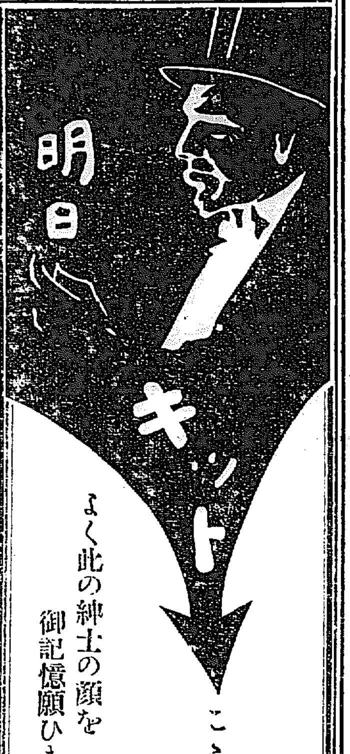
一圓九十錢　二圓九十錢　三圓九十錢　十五圓五十錢　十六圓五十錢　四圓二十錢　十九圓　十一圓　十二圓　二十八圓　廿一圓　百五十五圓　百五十圓　[illegible]

右は今回新渡の商品にて本商會獨り店に無きものにて其他のもの伏して御注文は御送料御代金引換にて地方通信の御注文一割引にて御送附申上候
小包郵便にて御送附申上候
時計、蓄音器、ミシン機械、自轉車、洋酒、各國貨直輸入商
イングレッソー商會
本店 京城本町二丁目 電話九七二番

醇良清酒
京城本町二丁目 特約販賣店 佐藤牧太郎
同 本町三丁目 特約販賣店 明治屋支店
大阪府堺市 醸造發賣元 肥塚源次郎

瀬戸皮膚科外科醫院
旭町二丁目(舊三丁目)
醫學士 瀬戸潔
診察夜九時まで
(電話二四九八番)

わきが
を一度御使用あれば今迄の如く悩むことなし
錢一圓注文は前金の事
京城黄金町三丁目 山田文殊堂藥房
藥價三十錢六十錢 方はフアーザー 郵送料不要



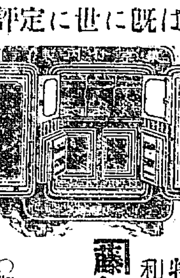
よく此の紳士の顔を御記憶願ひます
こゝを御覧下さい

人蔘エキス
人蔘エキスは下記諸病に特効あり御愛用の上精力を增進せられよ
總督府許可
特効能　神經衰弱、老衰、腦病、肺病、痔病、子宮病、胃腸病、發育不良より起る諸病外用に使もよし
定價　金三十五錢　金六十五錢　金一圓二十錢　金二圓
開城白蔘尾蔘大販賣
人蔘製藥 人蔘菓子 高麗細工 朝鮮土産一切
製造發賣元 津村兄弟商會
京城本町二丁目郵便局横 電話一四八〇番

資本金 五百萬圓
頭取 安田善三郎
株式會社 百三十銀行京城支店
京城本町壹丁目
電話 長五八番 一九四番
振替貯金京城一一三番
銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候 爲換取組先は内地各方面並朝鮮樞要の地に有之候

比較は最良の撰擇法なり
サクラ正宗
サクラ正宗
京城明治町一丁目
山邑京城支店
電話八四九番
振替京城五七番

日韓書房
新版報告
太郎著 依田信 學理的商略法 販賣術 定價八十五錢 送料八錢
諏訪吉著 實際養蜂 定價一圓二十錢 送料十二錢
安井著 陸軍人物史論 定價一圓二十錢 送料八錢
四宮佐治著 珠算教本 特價四十八錢 送料八錢
一八郎著 織物製造法 定價一圓四十錢 送料十二錢
京城本町二丁目
電話一四一五 振替口座二一二七五

東京竹内製金庫の堅牢確實なるは既に世に定評あり

◎金庫を使用せざる人は財寶を貴ばざる人なり
◎財寶即ち生命なり 金庫は遺憾なくこれを保護す
特約販賣店 利洋金物商
藤本藤次郎本店
京城本町二丁目 電話二四五番 二七七四番
振替貯金京城二五六番
○御申越次第目録進呈す○

最上醬油
朝鮮仁川港
高杉醬油釀造場

大邱浦項間自動車時間

上り(浦項發)　下り(大邱發)
浦項 大邱 各驛 [illegible]
大塚農場自動車部 大邱出張所 電話二七番

日本郵船仁川出帆

大連、大沽、牛莊行
相模丸 六月四日 正午出帆
高砂丸 六月十二日 正午出帆
三河丸 六月廿四日 正午出帆
仁川海岸町一丁目 電話十二番 堀回漕部

大阪商船仁川出帆

○外航所關航路(通津航路を除く)往復の時は五分引を以て往復切符發賣仕候
群山、木浦、釜山、關門、神戸大阪行
天智丸 五月三十日 午後五時出帆
安東丸 六月五日
須磨丸 五月廿六日
木浦、釜山、嚴原、鄕の浦、長崎行
信濃川丸 五月廿九日 後二時出
信濃川丸 六月十六日
鎮南浦、大連行
信濃川丸 五月廿九日 後二時出
信濃川丸 六月十一日
大連直行
福州丸 六月十七日 正午出帆
潮州丸 六月八日
木浦、釜山、關門、神戸、大阪行
安東丸 五月[illegible]日 後五時出
群山、釜山、横濱行
湖州丸 六月十三日 後二時出
福州丸 五月廿九日
清津、浦潮行(元山出帆)
印八城津、西湖津ニ寄港、浦潮不寄港
須磨丸 六月八日 後二時出
安平丸 五月廿五日
上海、芝罘、打狗行(大連出帆)
城津丸 五月廿六日 後四時出
湖北丸 六月六日
御注意
○定期航路及び南滿洲鐵道會社との聯絡切符發賣仕候
○御乘船客は本船出帆約一時間前迄に御乘船相成度候
○×印は一等客御斷り △印は二等客御斷り
京城切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 内國通運會社支店
▲中國四國沿岸各寄港船客に對し當分門司迄往復切符發賣仕候

朝鮮郵船出帆

本社 電話長一九五二番二三二一番
鐵道會社及社外船と聯絡し商客運賃輸送の便あり詳細は支店、出張所、代理店、荷客取扱店へ御照會相成度候
京城取次店 京城南大門驛前 松原運送店(電話長一七〇番)
全羅丸 京畿丸 貢海丸 成鏡丸 六月十一日 六月五日 六月一日 六月十五日 釜山發(門司より釜山各港を經て雄基間航路)
穩城丸 昌平丸 鏡城丸 六月二日 五月卅一日 五月廿七日 元山發(元山より各港を經て雄基行)
忠清丸 平壤丸 六月一日 六月十二日 元山發(城津清津浦鹽航行復航釜山より門司又は長崎行)
永興丸 毎月廿八回 元山發(北久味、五里浦行)
盈德丸 五月三十日 釜山發(甘浦、九龍里、浦項各港寄港慶尚島行)
江陵丸 襄陽丸 毎日 釜山 浦項發(長生浦方魚津寄港)
三浦丸 五月廿九日 釜山發(長承浦、麗水、巨文島濟州島各寄港)
海州丸 統營丸 巨濟丸 慶寶丸 毎日 釜山發(各港經由麗水行)
順天丸 三日目毎 木浦發(各港經由麗水行、麗水より釜山行に接續)(三日目一回水浦行)
慶興丸 五月廿八日 木浦發(各港經由濟州島行西廻)
公州丸 六月四日 木浦發(南多島海列島行(月三回))
公州丸 五月三十日 木浦發(各港經由濟州島行東廻)
宗信丸 五月廿七日 仁川發(海州鎮南浦各港經由)
江原丸 五月廿七日 仁川發(江景、大津、芝冬行)
麗水丸 晉州丸 六月一日 五月一日 仁川發(各港經由木浦行)
錦江丸 南陽丸 毎日午前 仁川發(江華島、橋洞島、海州行)
平安丸 六月一日 五月廿七日 群山發 若松發(往航 大黒山、木浦、門司、若松行 復航 門司、木浦、群山行)

阿波共同汽船仁川出帆

芝罘、大連行
阿波國共同汽船會社命令航路
第十一共同丸 五月廿七日入港 五月卅一日出港
朝鮮總督府命令航路 大連にては市島行定期船に接續し同航路の荷客共通取扱仕候
第一阪鶴丸 城津、清津、浦鹽行(元山出帆) 月 日 後九時出
第三共同丸 西湖津沿岸各港を經て雄基行(元山出帆) 月 日 前八時出
阿波國共同汽船株式會社
仁川代理店 本町一丁目 電話一〇八番 山下回漕部
元山代理店 南大門 電話二四四七番 田口回漕部
京城取次店 河村運送店

汽船釜山出帆廣告

門司、神戸、大阪行 立神丸 五月廿三日後五時出帆
元山、清津、浦鹽行 立神丸 五月 日後十時出帆
門司、神戸、大阪行 神丸 五月 日後十時出帆
元山、城津、浦鹽行 小倉丸 五月 日後五時出帆
元山、西湖、新浦、城津、清津行 第二小倉丸 五月 日後十時出帆
門司、宇品、神戸、大阪行 第三琴平丸 五月 日後六時出帆
住吉、嚴原、壹岐、博多行 天與丸 毎月二日九日十四日廿一日廿六日 午後十時出帆
釜山港埋立新町 本船取扱店 大池回漕部

尼崎汽船仁川出帆

群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
大正丸 五月 日後四時出帆
大有丸 五月廿七日後四時出帆
神代丸 五月 日後四時出帆
秀吉丸 五月廿五日後四時出帆
君が代丸 六月 日後五時出帆
仁川海岸通 電話五十九番 高杉回漕部

商況

大阪株式特電

合同新設　朝鮮新設　關上新株　東株
(七〇、三〇)　一六八、五〇　一四八、一〇　一〇二、五〇　八月限
[illegible]　一三二、二〇　一三二、一〇　一三三、六〇　五月限

下關期米特電

▲廿五日後場(小口拂ひ、圓放なるも値頃の賣物薄く見越の買方多し)

▲二十五日後場　大阪前場より十五圓二十錢後場一十六錢の入電にて當地は當日出來不申先限十二圓二十六錢と四錢安に寄付たるも在外氣乘薄にて四錢と押して動かず折柄大阪の氣配に七錢さ押して更に寄附の[illegible]

▲變動未だし　刃米に際したる大阪の一向展開せざるより目先小相場を繰返し居れるが何れは入阪筋の解決如何により一變動あるならんそれを[illegible]として當市の變合と使つて益々面白き波瀾を[illegible]

(寄付)　止　高値　安値
十二圓二十二錢　十二圓二十七錢　十二圓二十四錢

出來高 七千五百石

六月限 四千七百石
七月限 三萬三千七百五十石